

消費生活モニターアンケート調査報告

メインテーマ：「農産物価格の適正化について」

2024年11月

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果	2
1	農産物価格の適正化について	
問 1	農産物購入時に重視する点	2
問 2	農産物の購入先	3
問 3	価格が上がったと感じる品目	4
問 4	農産物の値上げに伴う消費生活の変化	5
問 5	農産物の値上げへの対応	6
問 6	農産物の値上げに対する許容範囲	7
問 7	農産物の価格転嫁について	8
問 8	農産物の価格上昇の原因	9
問 9	農産物価格の適正化に向けて生産者、販売者及び行政に期待すること	10
問 10	農産物価格の適正化に向けて消費者ができること	11
2	消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業について	
問 11	消費者教育・啓発、情報提供事業の認知度	12
問 12	消費者教育・啓発、情報提供事業の効果	13
問 13	消費生活情報「あいち暮らしっく」の活用	14
問 14	「あいち暮らしっく」等に掲載してほしい情報・分野	15
問 15	「あいち暮らし WEB」及び「エシカル×あいち」の閲覧項目	16
問 16	消費生活に関する授業や講座の参加経験	18
問 17	消費生活に関する授業や講座について受講を希望するテーマ	19
問 18	高齢者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	20
問 19	若者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	21
問 20	消費生活相談窓口の利用促進に有効な対策	22
問 21	エシカル消費の認知度、普段取り組んでいるエシカル消費	23
問 22	エシカル消費の認知度を高めるために有効な施策	24
3	食の安全・安心について	
問 23	食の安全に関する取組への関心度	25
問 24	食の安全への影響で特に不安に思っているもの	26
問 25	食品を購入するときに特に注意すること	27
問 26	愛知県の食品衛生を向上させるための取組	28
問 27	アニサキスによる食中毒について	29
問 28	カンピロバクター食中毒について	30
問 29	食物アレルギーの食品表示について	31
問 30	機能性表示食品について	32
問 31	食の安全・安心に関する情報発信に期待する内容	33
問 32	食の安全・安心に関する意見・要望等	34

4 食生活について

問 33	無駄や廃棄の少ない食事づくりについて	35
問 34	郷土料理等の食文化の家庭・地域への継承について	36
問 35	栄養バランスのとれた食事について	37
問 36	野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度について	38
問 37	食品を購入する際の産地について	39

I 調査の概要

1 調査の目的

近年、急速な円安の進行等により、肥料や燃料などの価格が高騰しているほか、気象の影響による一時的な供給量の減少等により農産物価格が上昇しています。一方で、生産者側は十分に農産物等への価格転嫁ができておらず、食料安定供給に影響を及ぼしかねない状況になっています。

このアンケート調査は、「農産物価格の適正化について」をメインテーマとし、そのほか、「消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業」、「食の安全安心」及び「食生活」について、消費者の意識、認知度、意向などを把握し、今後の施策の参考とするものです。

2 調査の実施時期

2024年7月19日から8月19日まで（郵送による）

3 調査対象者

愛知県消費生活モニター^(※) 150名 （回答者数 131名 回収率 87.3%）

4 回答者の性別・年齢

(1) 性別 女性：87名（66.4%）、男性：44名（33.6%）

(2) 年代別 10歳代：0名（- %）、20歳代：4名（3.1%）、30歳代：12名（9.2%）、
40歳代：27名（20.6%）、50歳代：37名（28.2%）、60歳代：29名（22.1%）、
70歳代：21名（16.0%）、80歳以上：1名（0.8%）

(注1) 調査結果の数値（率）は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

(注2) 調査結果中の「有効回答者数」は、「調査対象者」から「未提出者」「無回答」「無効回答」を除いた数です。

※ 愛知県消費生活モニター：愛知県からの依頼により、危険と思われる商品、不当な表示、悪質商法などの観察や、県への情報提供を行うほか、身近な方への消費生活に関する情報の提供等を行っています。

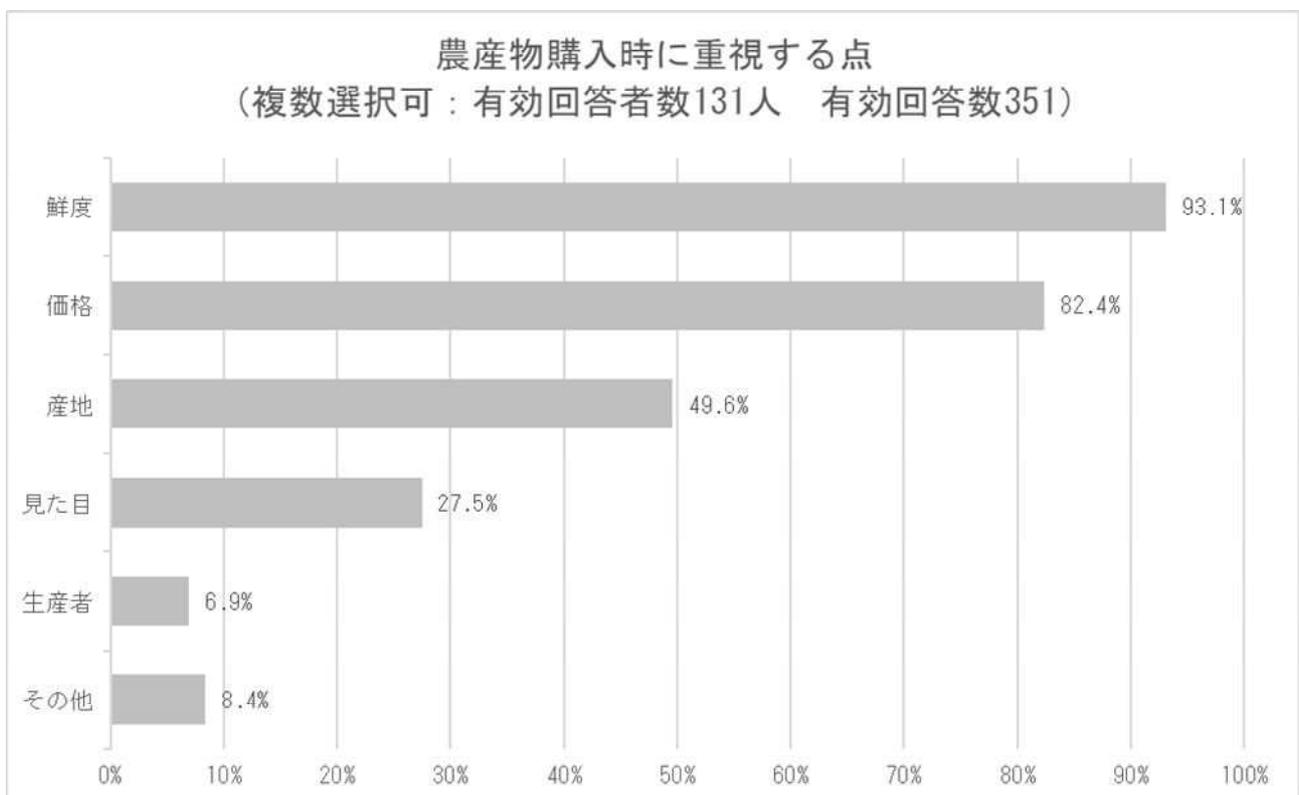
II 調査結果

1 農産物価格の適正化について

問1 農産物を購入する際、特に重要な点は何ですか。(複数選択可)

<回答結果>

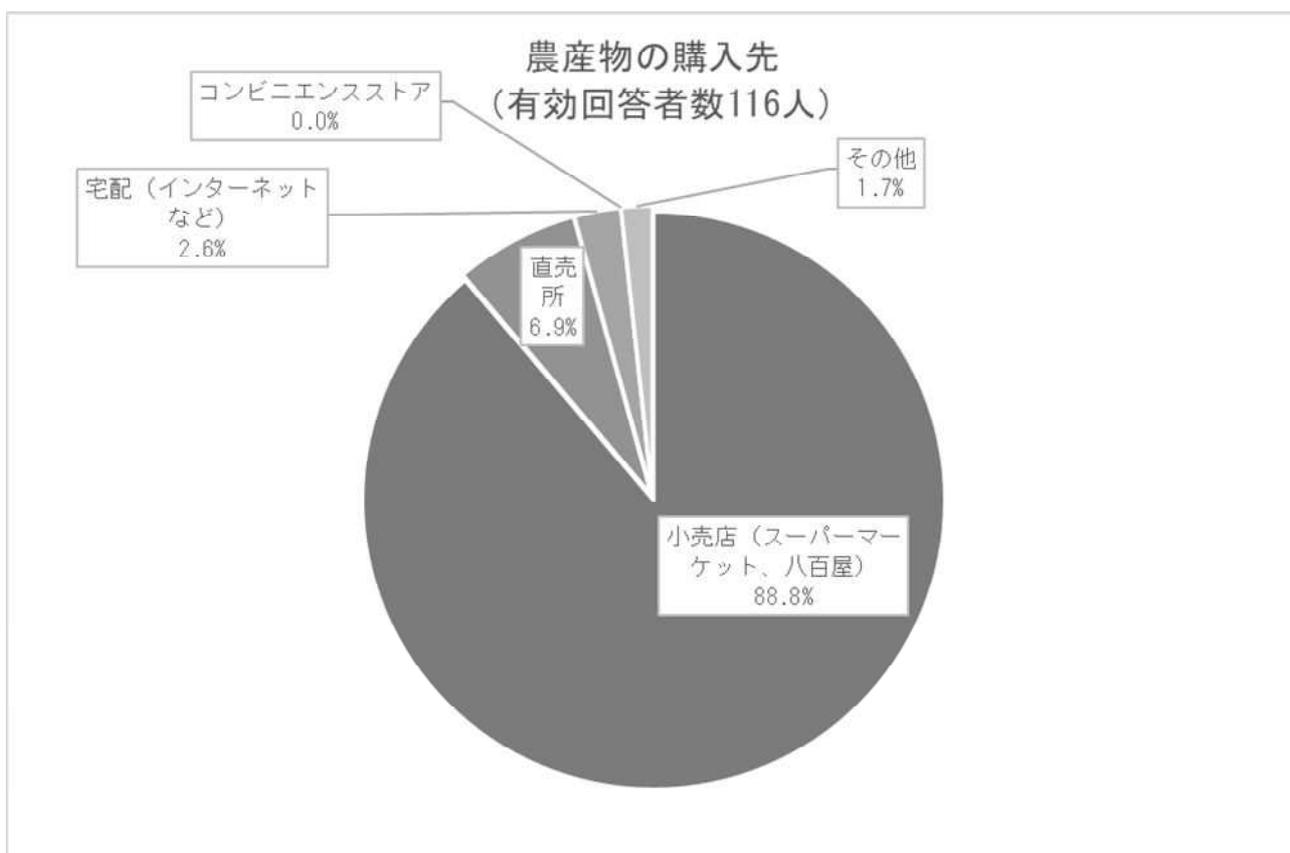
農産物を購入する際に、特に重要と考えている点について、「鮮度」と回答した方が93.1%で最も多く、次いで「価格」と回答した方が82.4%、「産地」と回答した方が49.6%、「見た目」と回答した方が27.5%の順であった。



問2 農産物の購入先で多いのは次のうちどれですか。(一つ選択)

<回答結果>

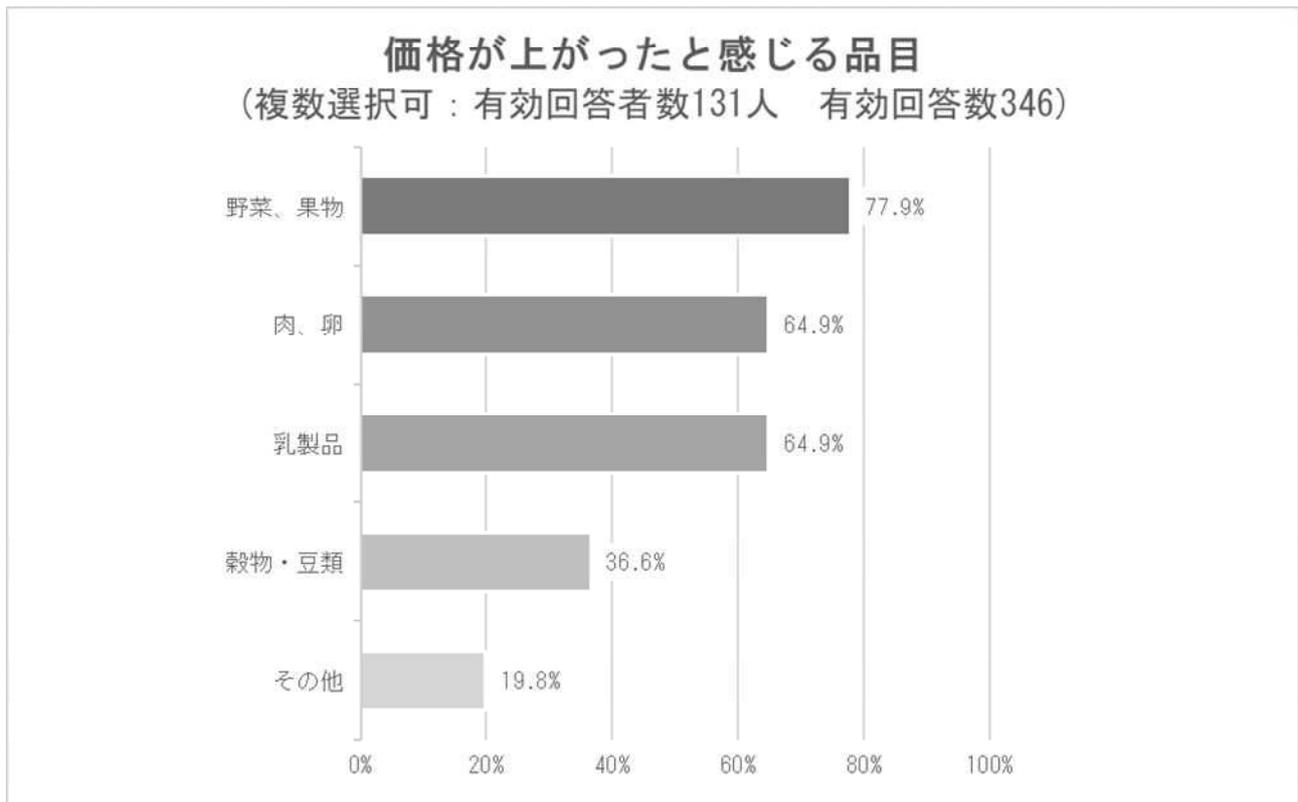
農産物の購入先について、「小売店（スーパーマーケット、八百屋）」と回答した方が88.8%で最も多く、次いで「直売所」と回答した方が6.9%、「宅配（インターネットなど）」と回答した方が2.6%の順であった。



問3 2023年7月から2024年7月にかけて、価格が上がったと感じる品目はどれですか。
(複数選択可)

<回答結果>

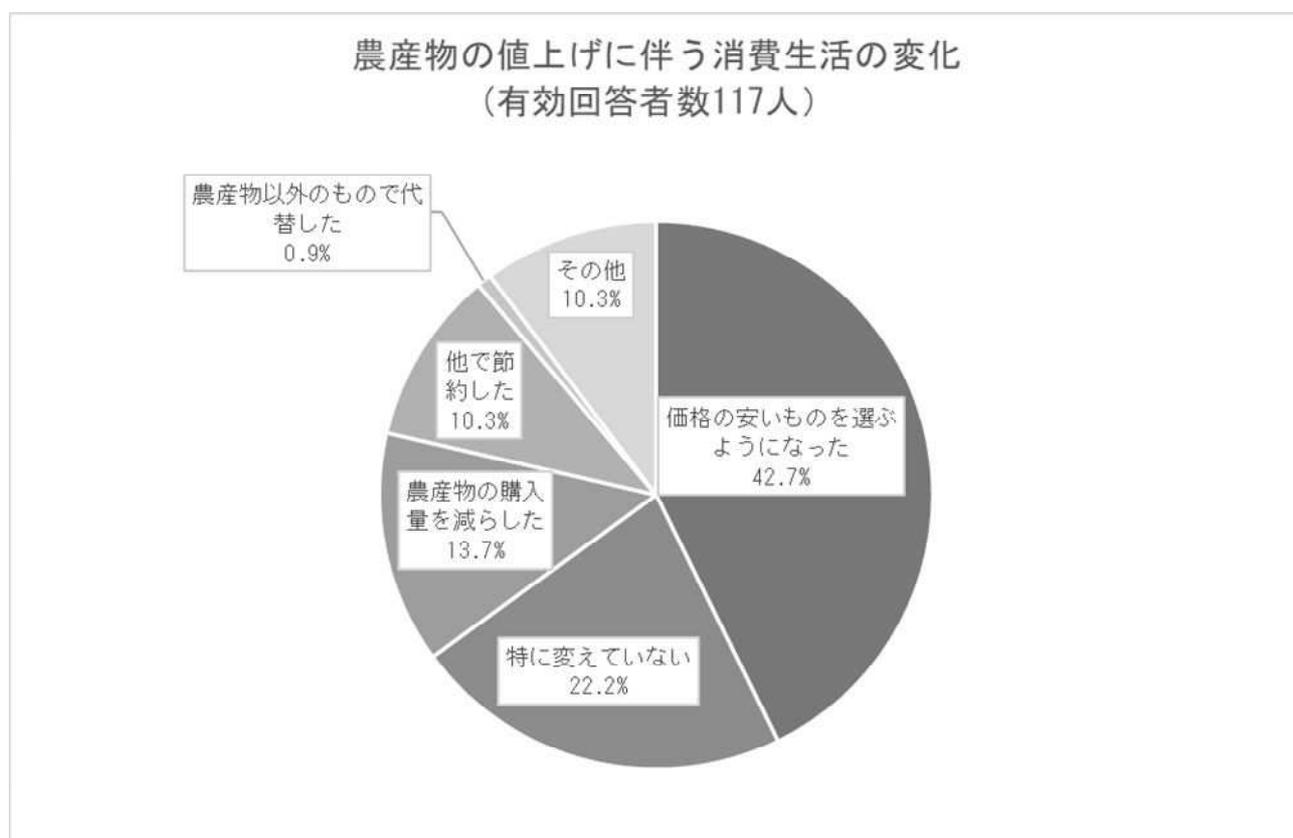
価格が上がったと感じる品目について、「野菜、果物」と回答した方が77.9%で最も多く、次いで「肉、卵」「乳製品」と回答した方がそれぞれ64.9%、「穀物、豆類」と回答した方が36.6%の順であった。



問4 農産物の値上げに伴い、変化したことはありますか。(一つ選択)

<回答結果>

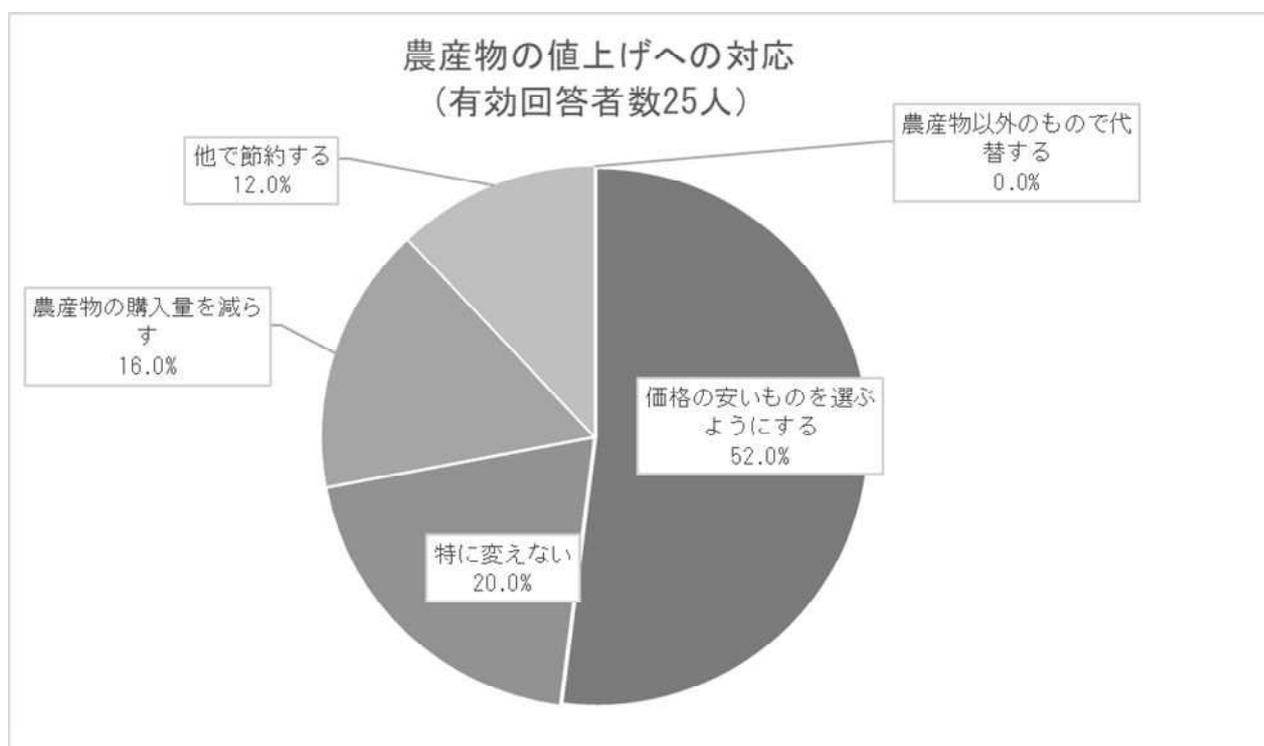
農産物の値上げに伴い、変化したことについて、「価格の安いものを選ぶようになった」と回答した方が42.7%で最も多く、次いで「特に変えていない」と回答した方が22.2%、「農産物の購入量を減らした」と回答した方が13.7%、「他で節約した」と回答した方が10.3%の順であった。



問5 問4で、「6 特に変えていない」と回答された方にお伺いします。
農産物の値上げが続いた場合、どのように対応しますか。(一つ選択)

<回答結果>

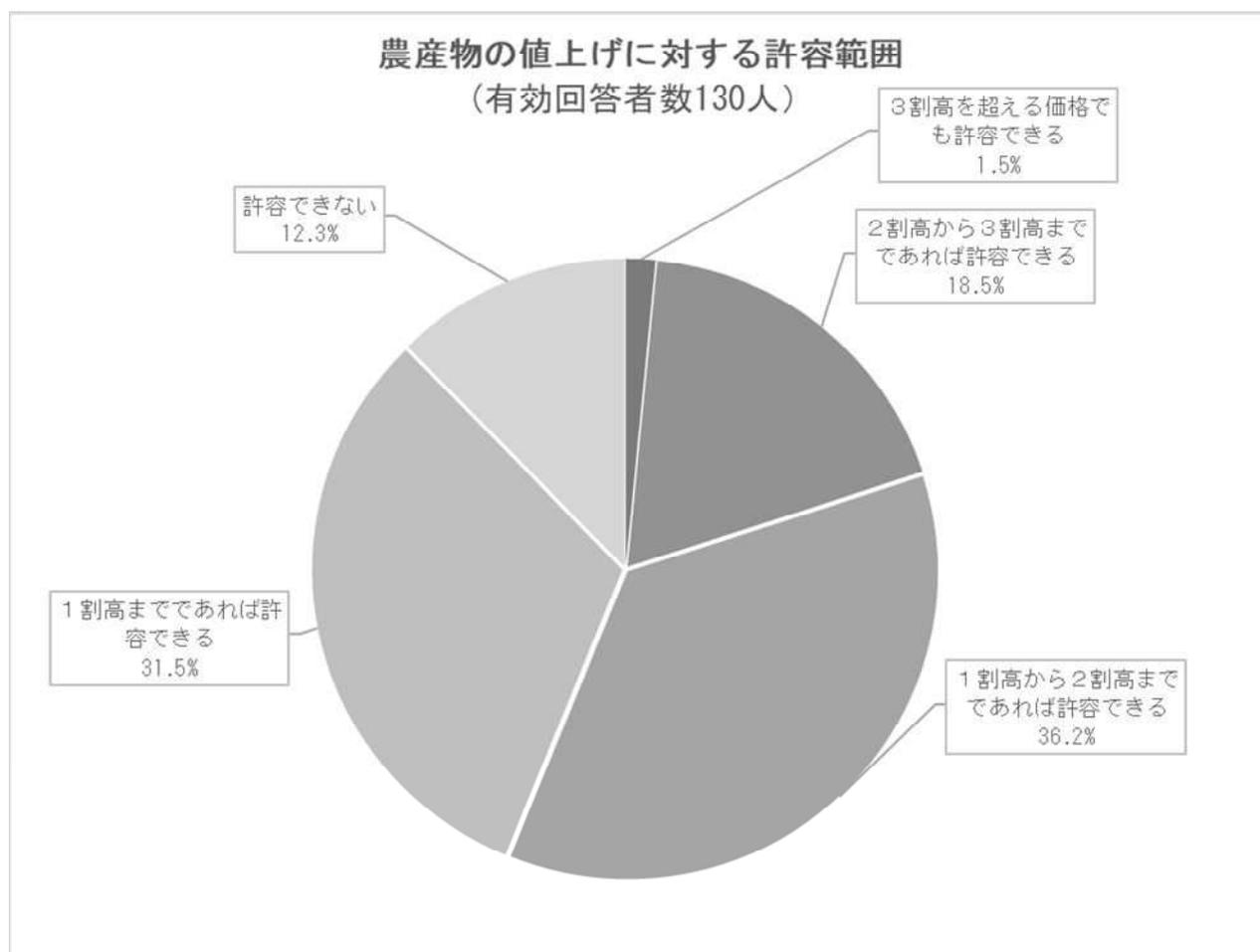
農産物の値上げに伴い特に変えていないが、農産物の値上げが続いた場合の対応について「価格の安いものを選ぶようにする」と回答した方が52.0%と最も多く、「特に変えない」と回答した方が20.0%、「農産物の購入量を減らす」と回答した方が16.0%。「他で節約する」と回答した方が12.0%の順であった。



問6 農産物について、何割までの値上げであれば許容できますか。(一つ選択)

<回答結果>

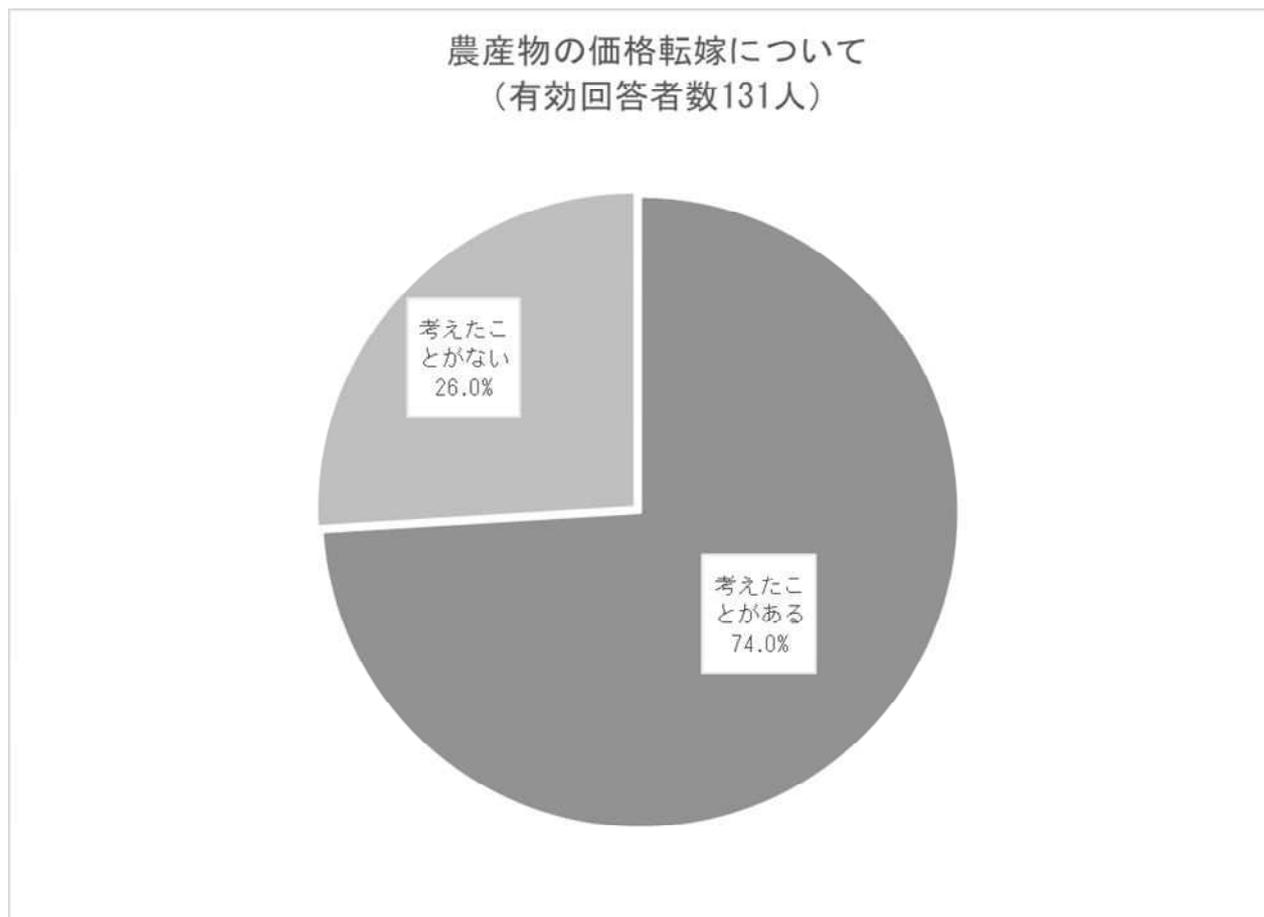
農産物について許容できる値上げの範囲について、「1割高から2割高までであれば許容できる」と回答した方が36.2%と最も多く、「1割高までであれば許容できる」と回答した方が31.5%、「2割高から3割高までであれば許容できる」と回答した方が18.5%と続き、「許容できない」と回答した方は12.3%、「3割高を超える価格でも許容できる」と回答した方は1.5%であった。



問7 農産物の価格転嫁について考えたことはありますか？

<回答結果>

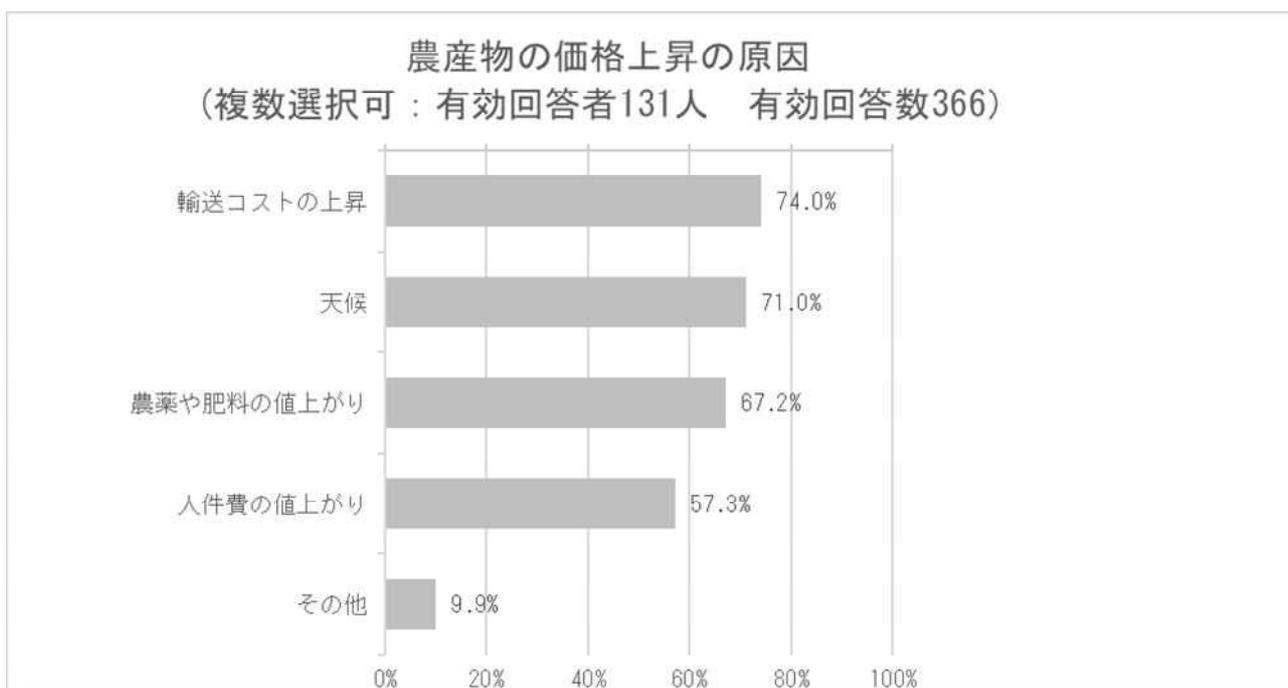
農産物の価格転嫁について、「考えたことがある」と回答した方は全体の74.0%、「考えたことがない」と回答した方は全体の26.0%であった。



問8 農産物の価格上昇に主に影響を与えているものは何だと思いますか。(複数選択可)

<回答結果>

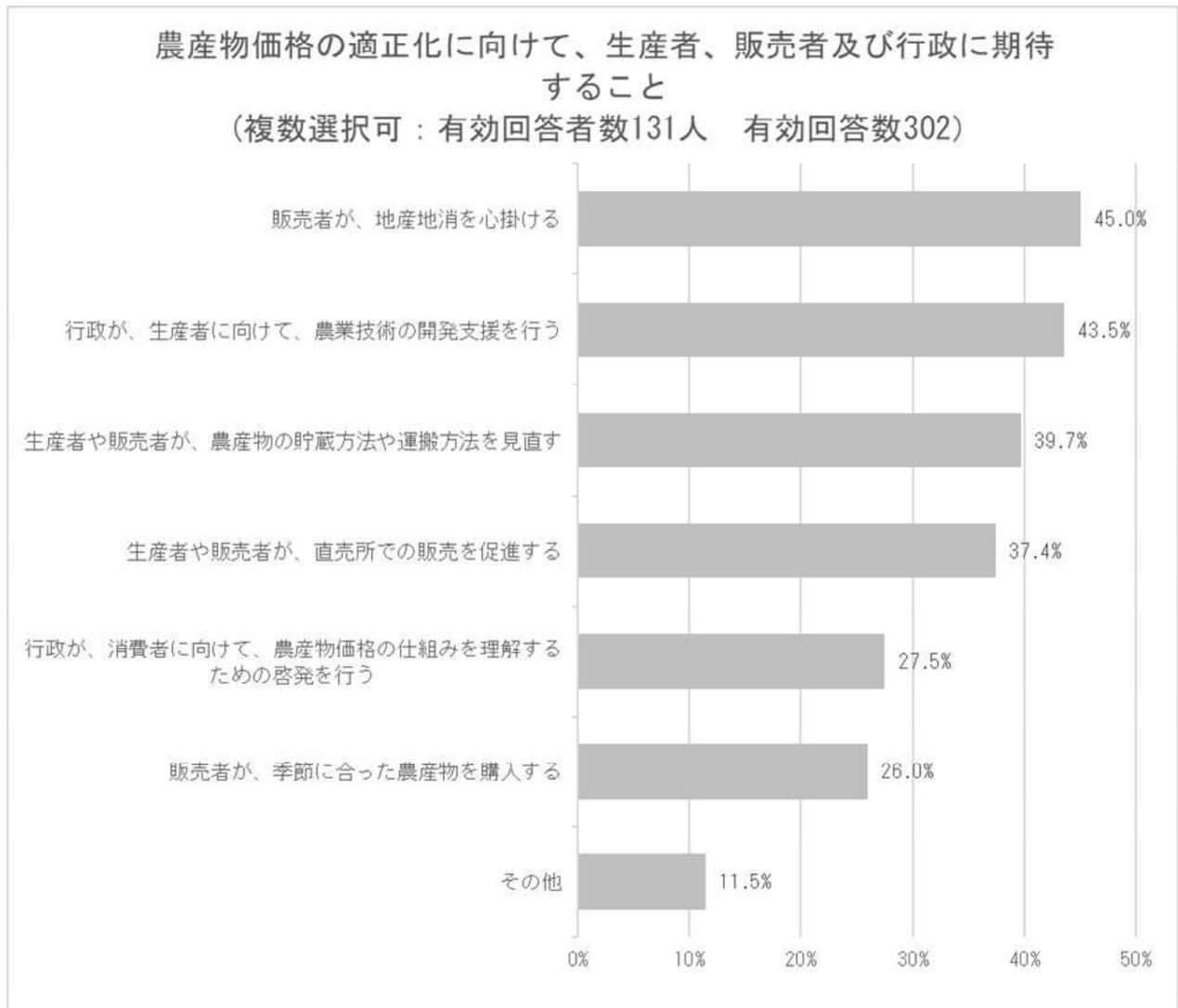
農産物の価格上昇に主に影響を与えているものについて、「輸送コストの上昇」と回答した方が74.0%で最も多く、次いで「天候」と回答した方が71.0%、「農薬や肥料の値上がり」と回答した方が67.2%、「人件費の値上がり」と回答した方が57.3%の順であった。



問9 農産物価格の適正化に向けて、生産者、販売者や行政に期待することはありますか。(複数選択可)

<回答結果>

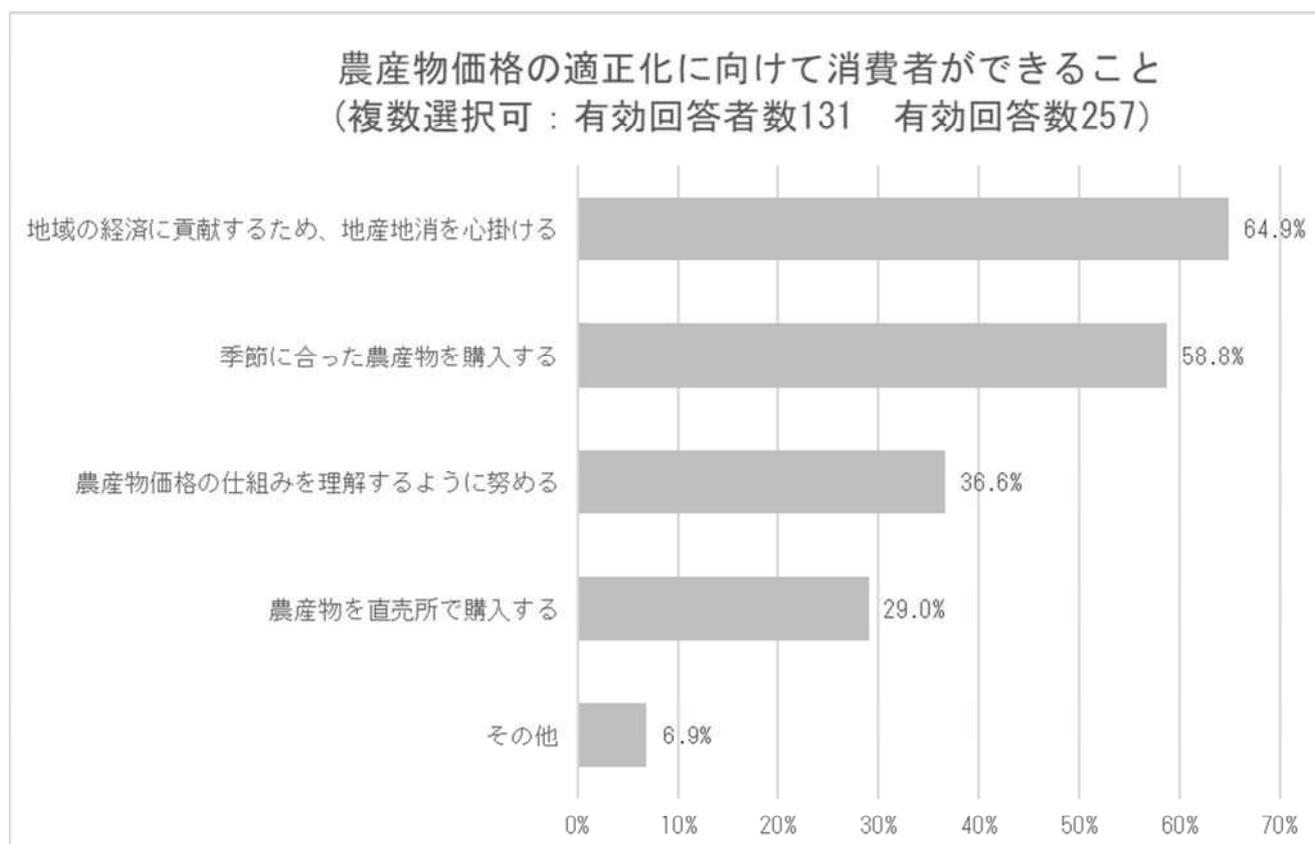
農産物価格の適正化に向けて、生産者、販売者や行政に期待することについて、「販売者が、地産地消を心掛ける」と回答した方が45.0%で最も多く、次いで「行政が、生産者に向けて、農業技術の開発支援を行う」と回答した方が43.5%、「生産者や販売者が、農産物の貯蔵方法や運搬方法を見直す」と回答した方が39.7%、「生産者や販売者が、直売所での販売を促進する」と回答した方が37.4%、「行政が、消費者に向けて、農産物価格の仕組みを理解するための啓発を行う」と回答した方が27.5%、「販売者が、季節に合った農産物を購入する」と回答した方が26.0%の順であった。



問 10 農産物価格の適正化に向けて、あなたができることは何だと思えますか。(複数選択可)

<回答結果>

農産物価格の適正化に向けて、自分ができることについて、「地域の経済に貢献するため、地産地消を心掛ける」と回答した方が 64.9%で最も多く、次いで「季節に合った農産物を購入する」と回答した方が 58.8%、「農産物価格の仕組みを理解するように努める」と回答した方が 36.6%、「農産物を直売所で購入する」と回答した方が 29.0%の順であった。

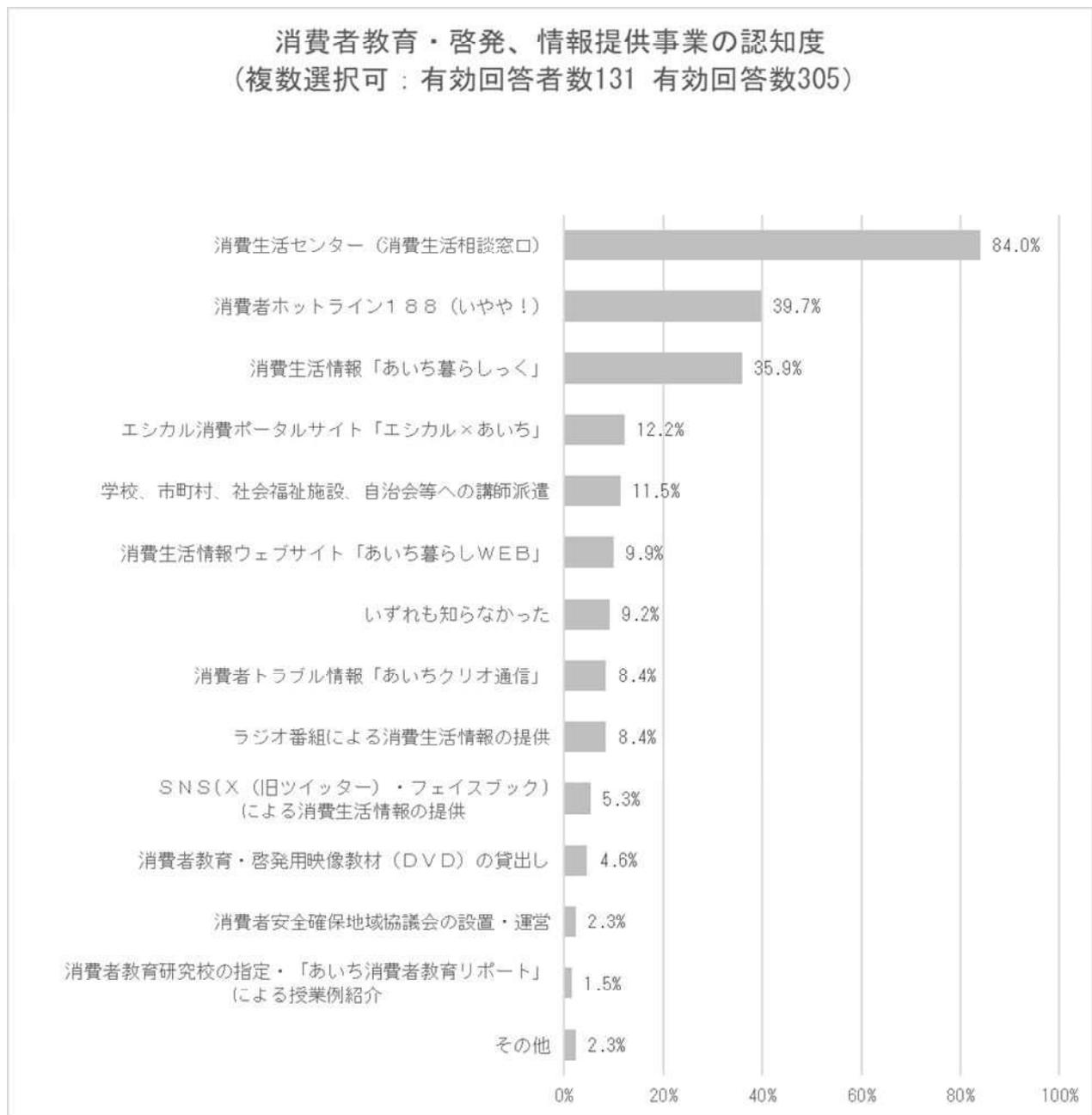


2 消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業について

問 11 消費生活センターの設置や、県（県民生活課）が行っている定例の消費者教育・啓発、情報提供事業について、消費生活モニターになる以前から知っていたものはありますか。知っていたものを回答してください。（複数回答可）

<回答結果>

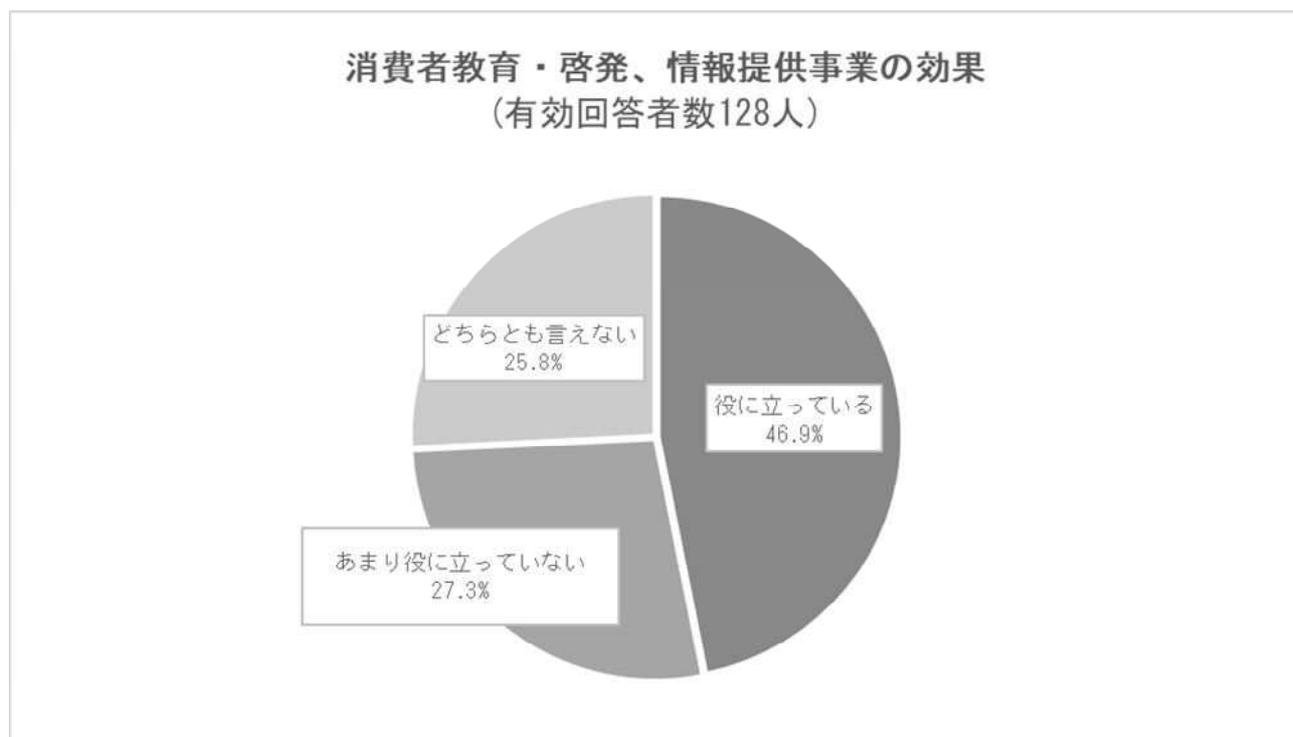
消費生活センターの設置や、消費者教育・啓発、情報提供事業について知っていたものについて、「消費生活センター(消費生活相談窓口)」と回答した方が 84.0%で最も多く、次いで「消費者ホットライン 188 (いやや!)」と回答した方が 39.7%、「消費生活情報『あいち暮らしっく』」と回答した方が 35.9%の順であった。



問 12 県が行っている消費者教育・啓発、情報提供事業について、消費生活の安定や向上に役立っていると思いますか。(一つ選択)

<回答結果>

県が行っている消費者教育・啓発、情報提供事業について、「役に立っている」と回答した方が 46.9%で最も多く、次いで「あまり役に立っていない」と回答した方が 27.3%、「どちらも言えない」と回答した方が 25.8%の順であった。



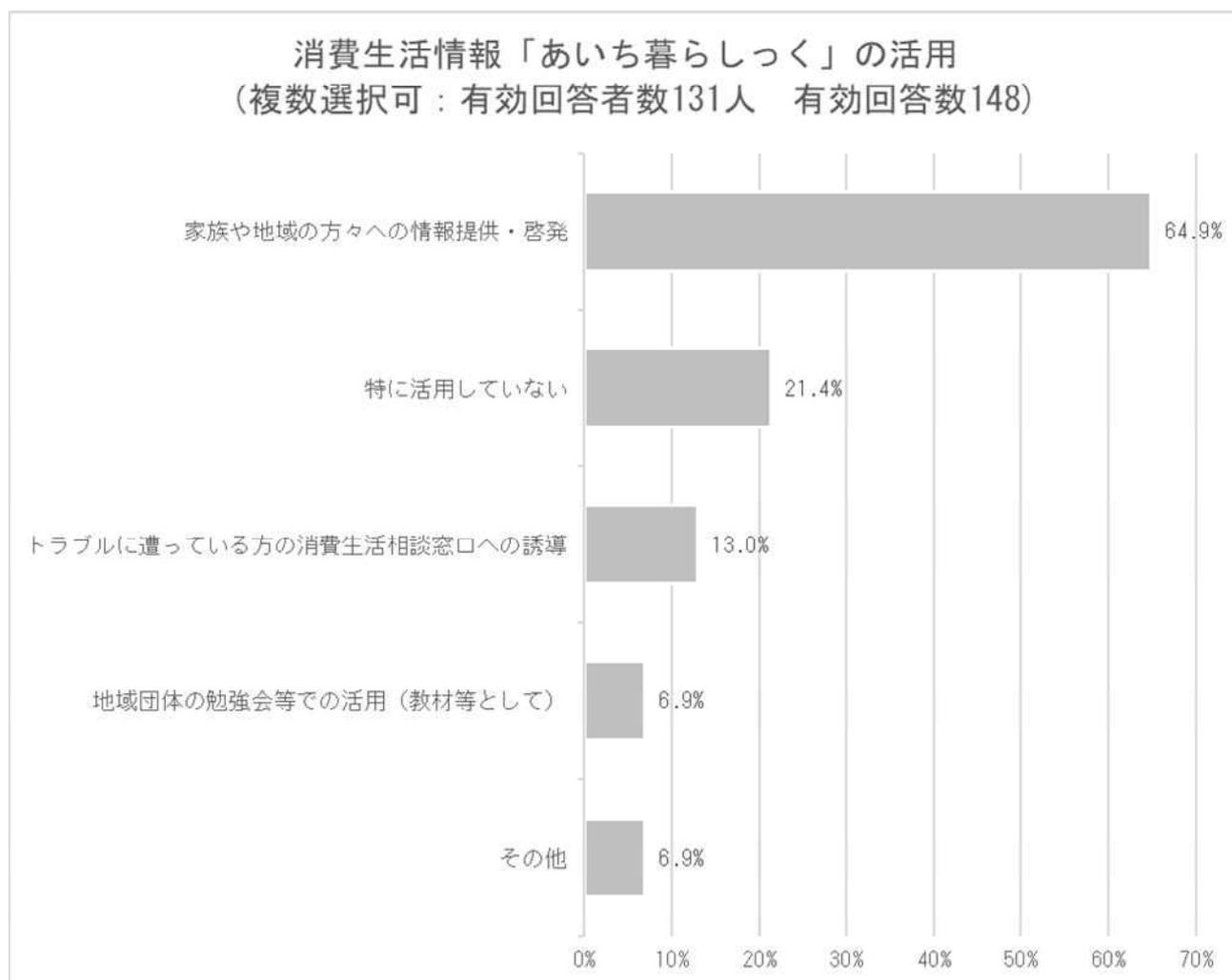
「あまり役に立っていない」理由については、「周知されていない」、「県民の関心がない」などがあつた。

また、その改善策としては、「SNS等を積極的に活用する」、「町内会や地域の回覧板等地域のネットワークを活用する」などがあつた。

問 13 県では消費生活情報「あいち暮らしっく」を年に6回配信し、消費生活モニターの皆様へ郵送させていただきますが、どのように御活用いただいていますか。(複数回答可)

<回答結果>

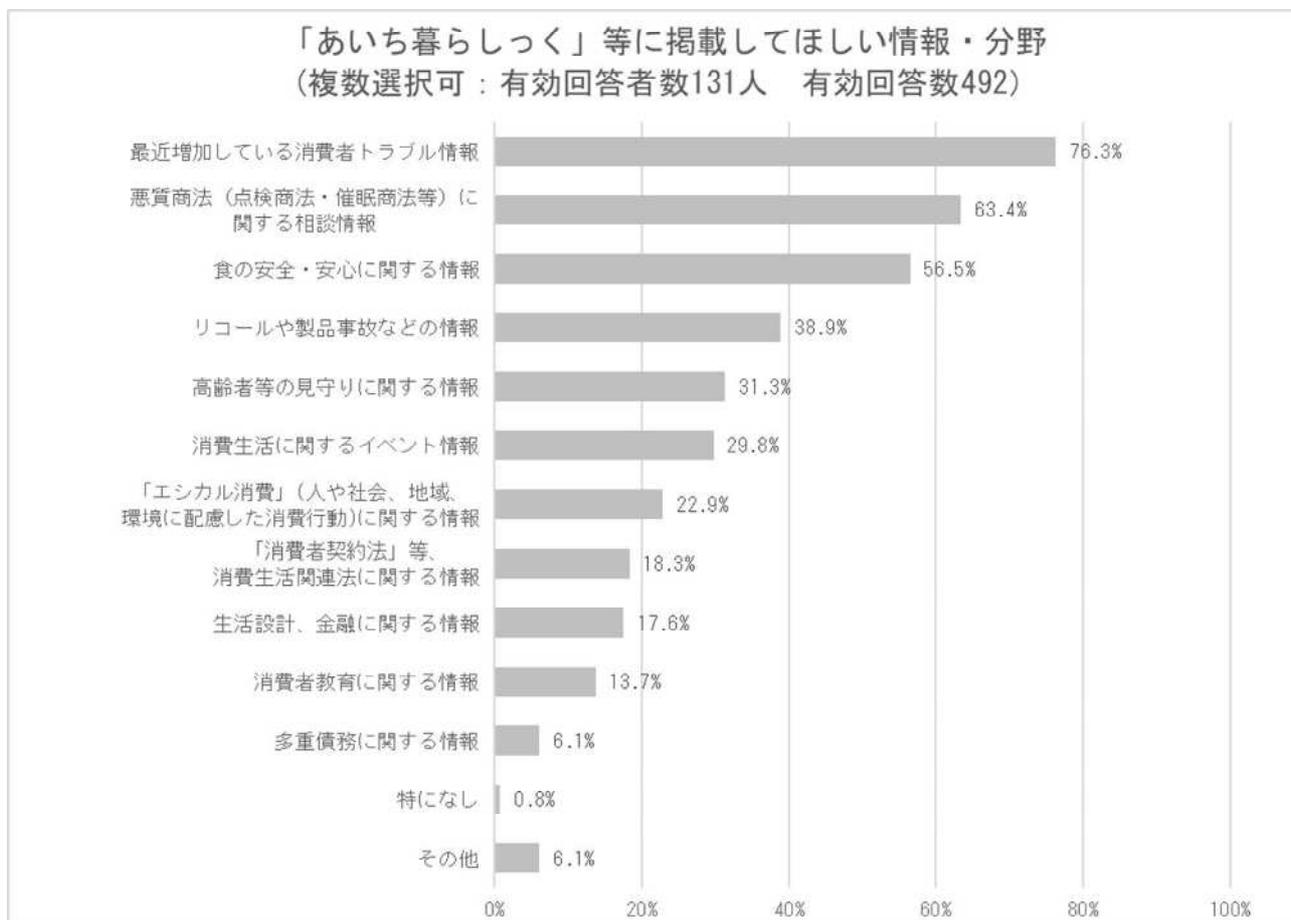
消費生活情報「あいち暮らしっく」の活用方法について、「家族や地域の方々への情報提供・啓発」と回答した方が64.9%で最も多く、次いで「特に活用していない」と回答した方が21.4%、「トラブルに遭っている方の消費生活相談窓口への誘導」と回答した方が13.0%、「地域団体の勉強会等での活用(教材等として)」と回答した方は6.9%であった。



問 14 消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野は何ですか。(複数回答可)

<回答結果>

消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野について、「最近増加している消費者トラブル情報」と回答した方が76.3%で最も多く、次いで「悪質商法（点検商法・催眠商法等）に関する相談情報」と回答した方が63.4%、「食の安全・安心に関する情報」と回答した方が56.5%の順であった。



問 15 県の消費生活情報ウェブサイト「あいち暮らしWEB」(https://www.pref.aichi.jp/kenmin/s-hohiseikatsu/information/kurassic.html) 及び、エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」(https://www.pref.aichi.jp/kenmin/ethical/)について、どの情報をよく御覧になりますか。(複数回答可)

また、「14 『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない」や、「9 『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」を選択された場合、その理由を記入してください。

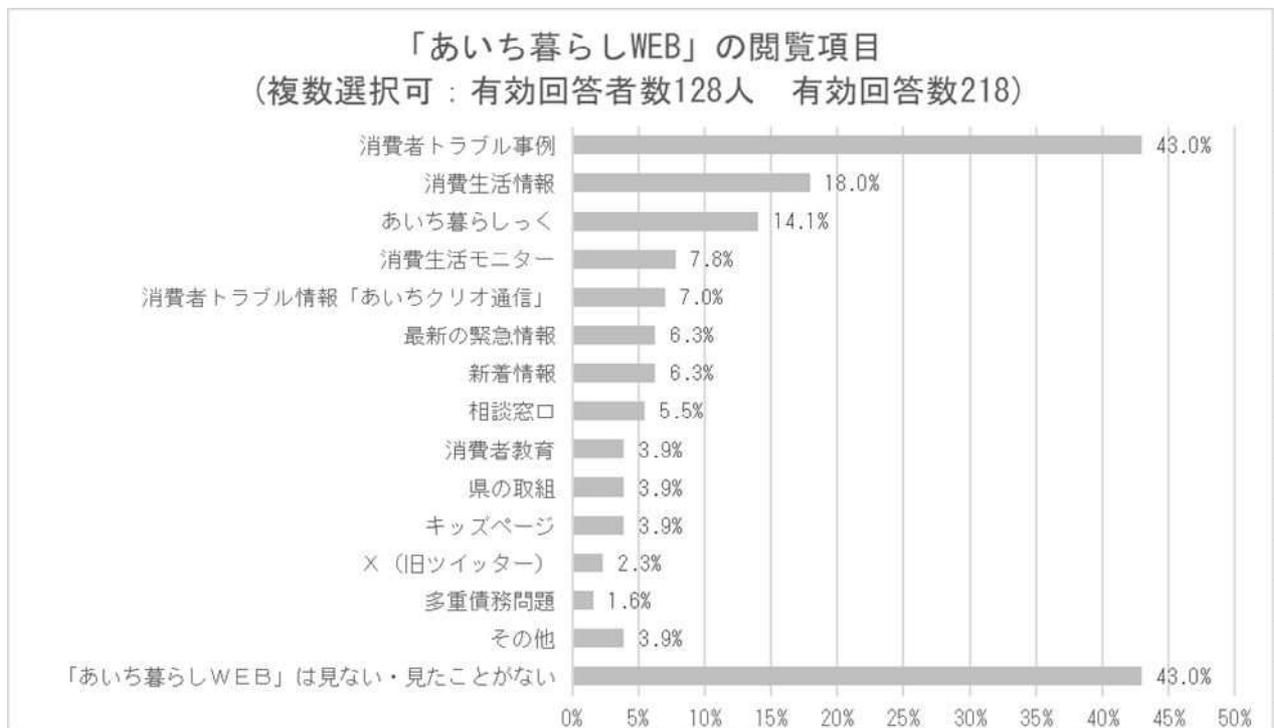
<回答結果>

【県の消費生活情報ウェブサイト「あいち暮らしWEB」について】

「あいち暮らしWEB」でよく見られている情報について、「消費者トラブル事例」と回答した方が43.0%で最も多く、次いで「消費生活情報」と回答した方が18.0%、「あいち暮らしっく」と回答した方が14.1%の順であった。

一方、回答者の43.0%は「『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない」と回答した。

「『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない」理由については、「存在を知らなかった」、「パソコンやスマホに不慣れ」などがあつた。



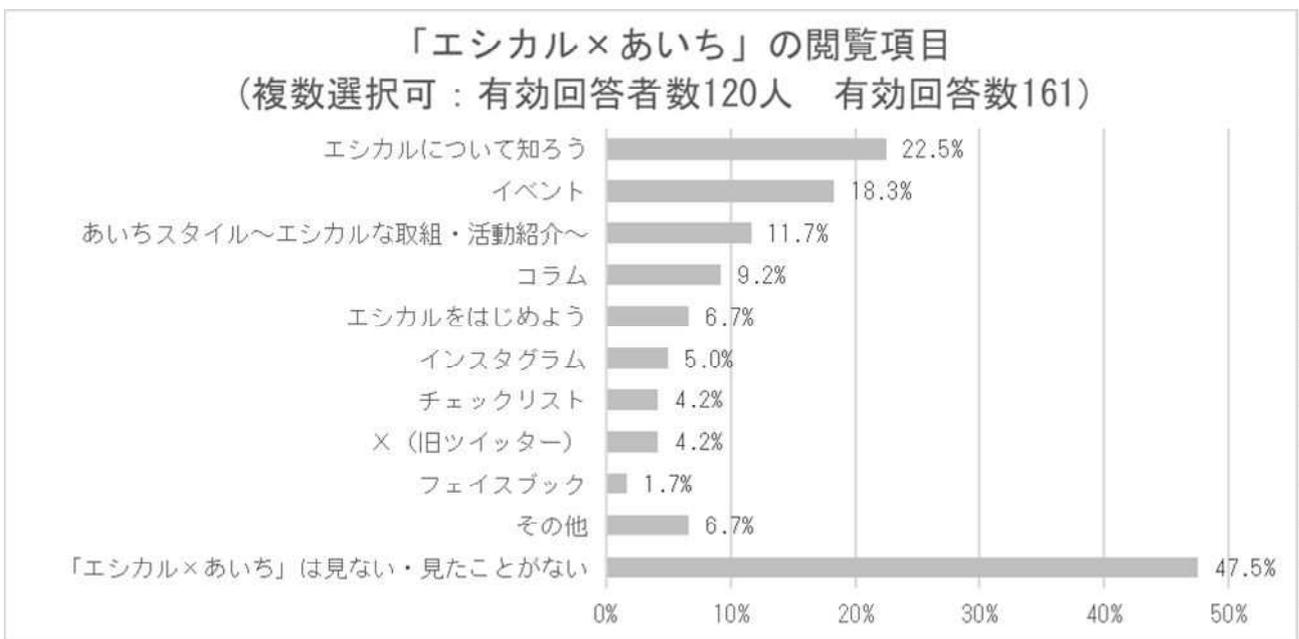
<回答結果>

【エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」について】

「エシカル×あいち」でよく見られている情報について、「エシカルについて知ろう」と回答した方が22.5%で最も多く、次いで「イベント」と回答した方が18.3%、「あいちスタイル～エシカルな取組・活動紹介～」と回答した方が11.7%、「コラム」と回答した方が9.2%の順であった。

一方、回答者の47.5%は『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」と回答した。

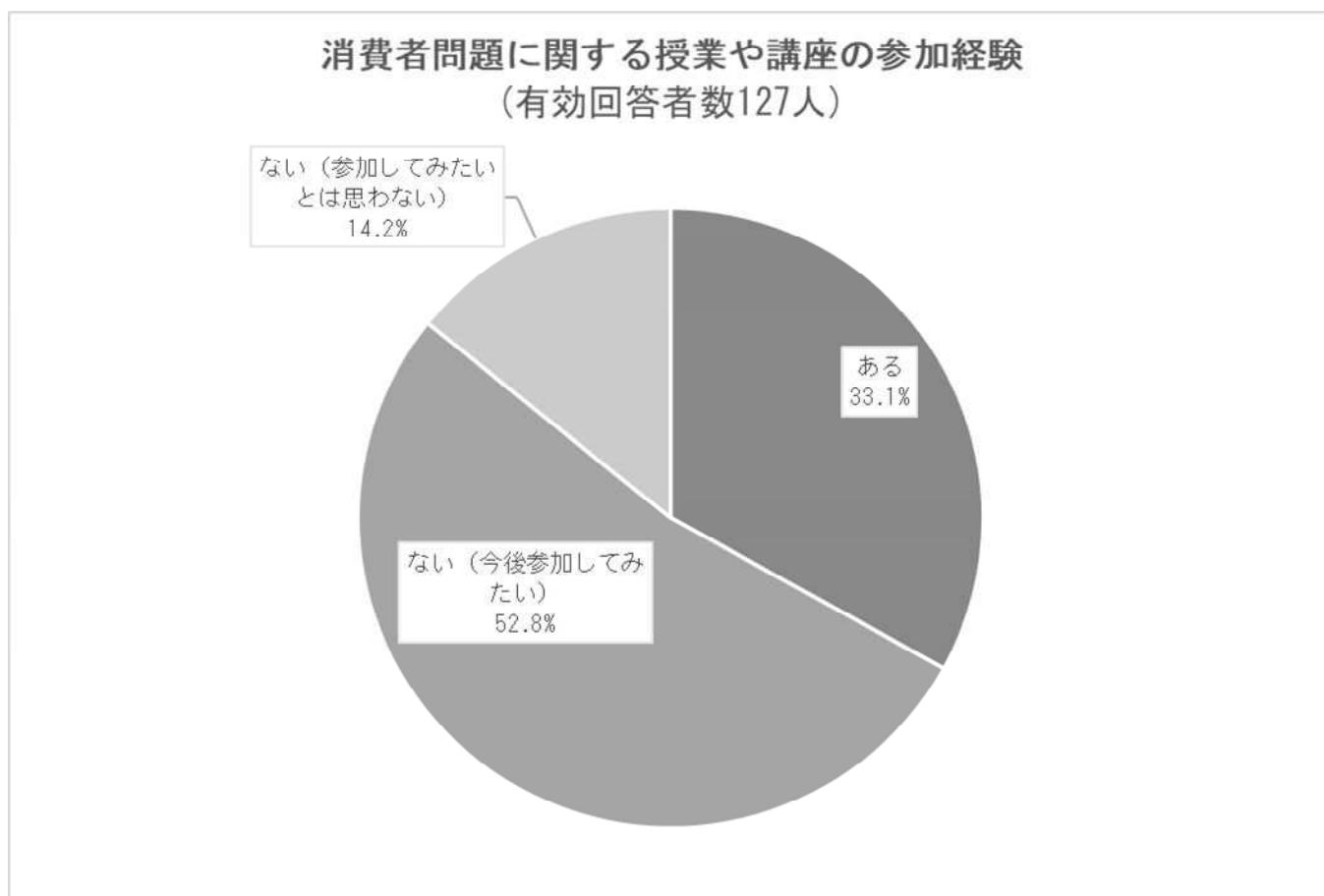
『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」理由については、「知らなかった」、「関心がない」などがあつた。



問 16 消費者問題に関する授業を受けたり、講座に参加したことはありますか。また、「3 ない(参加してみたいとは思わない)」を選択された場合、その理由を教えてください。(一つ選択)

<回答結果>

消費者問題に関する授業や講座の参加経験について、「ない(今後参加してみたい)」と回答した方が52.8%で最も多く、次いで「ある」と回答した方が33.1%、「ない(参加してみたいとは思わない)」と回答した方が14.2%の順であった。

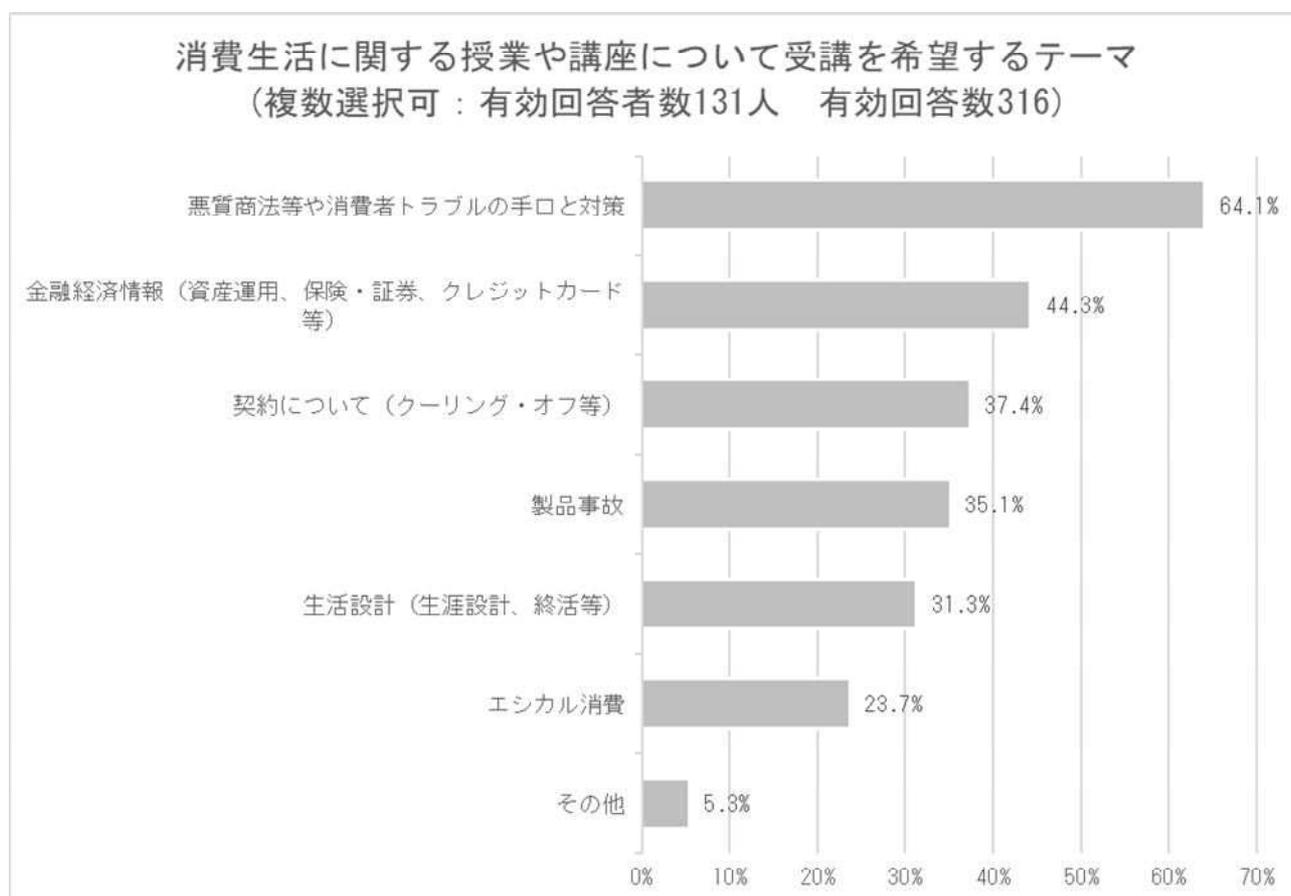


参加してみたいとは思わない理由について、「近隣で講座等が実施されていないため」が最も多く、他に「内容が難しそうであるため」、「感染症予防のため、多くの人が集まる会場には行かないようにしているため」、「消費者被害の未然防止に有効であるとは思えないため」などがあつた。

問 17 あなたが消費生活に関する授業や講座を受ける場合、どのようなテーマの受講を希望しますか。(複数回答可)

<回答結果>

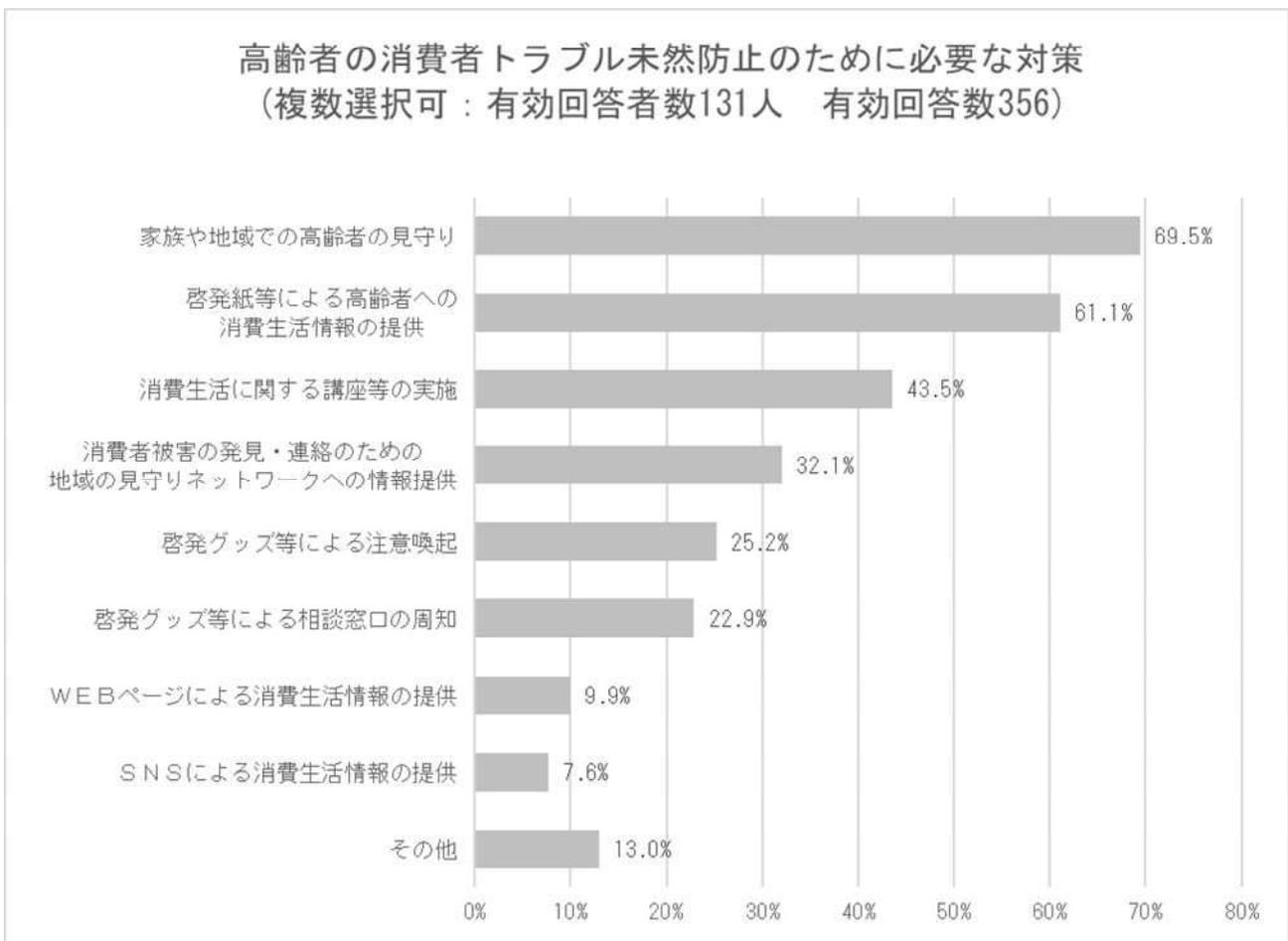
消費者問題に関する授業や講座の希望受講テーマについて、「悪質商法等や消費者トラブルの手口と対策」と回答した方が64.1%で最も多く、次いで「金融経済情報（資産運用、保険・証券、クレジットカード等）」と回答した方が44.3%、「契約について（クーリング・オフ等）」と回答した方が37.4%の順であった。



問 18 高齢者の消費者トラブルを未然に防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。
(複数回答可)

<回答結果>

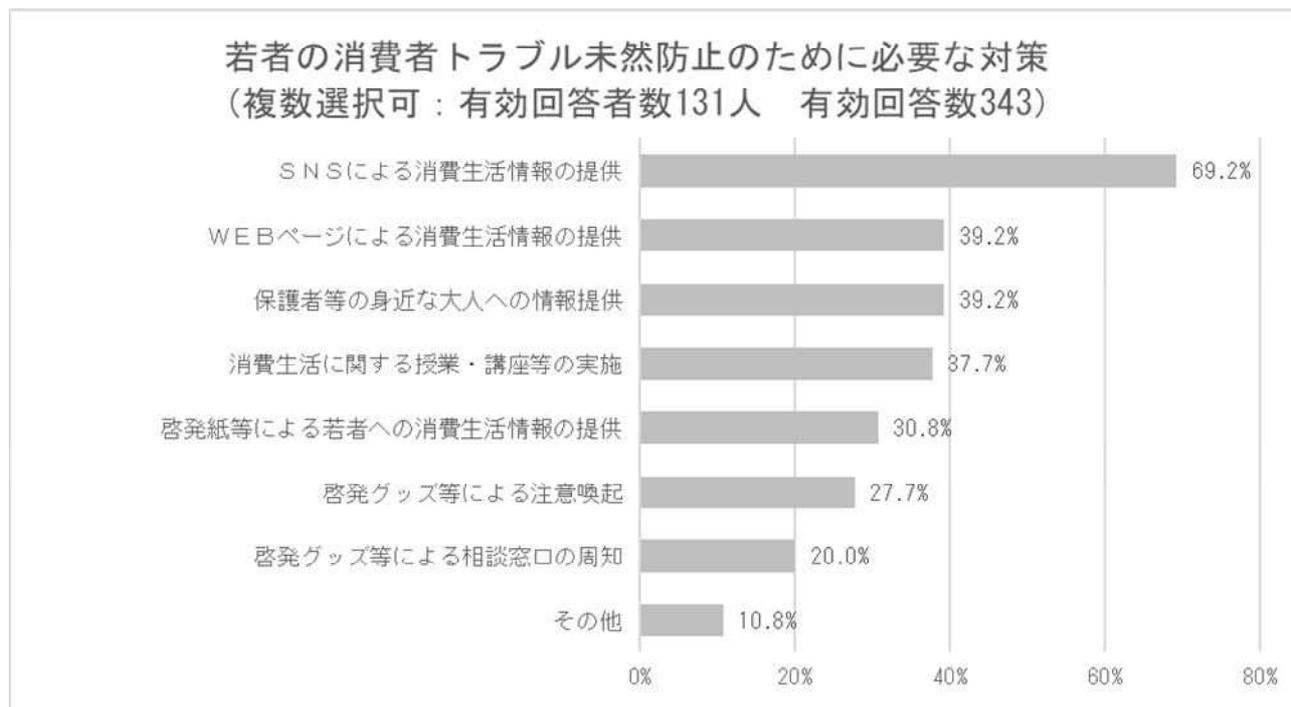
高齢者の消費者トラブルを未然に防止するために必要な対策について、「家族や地域での高齢者の見守り」と回答した方が69.5%で最も多く、次いで「啓発紙等による高齢者への消費生活情報の提供」と回答した方が61.1%、「消費生活に関する講座等の実施」と回答した方が43.5%の順であった。



問 19 若者の消費者トラブルを未然に防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。
(複数回答可)

<回答結果>

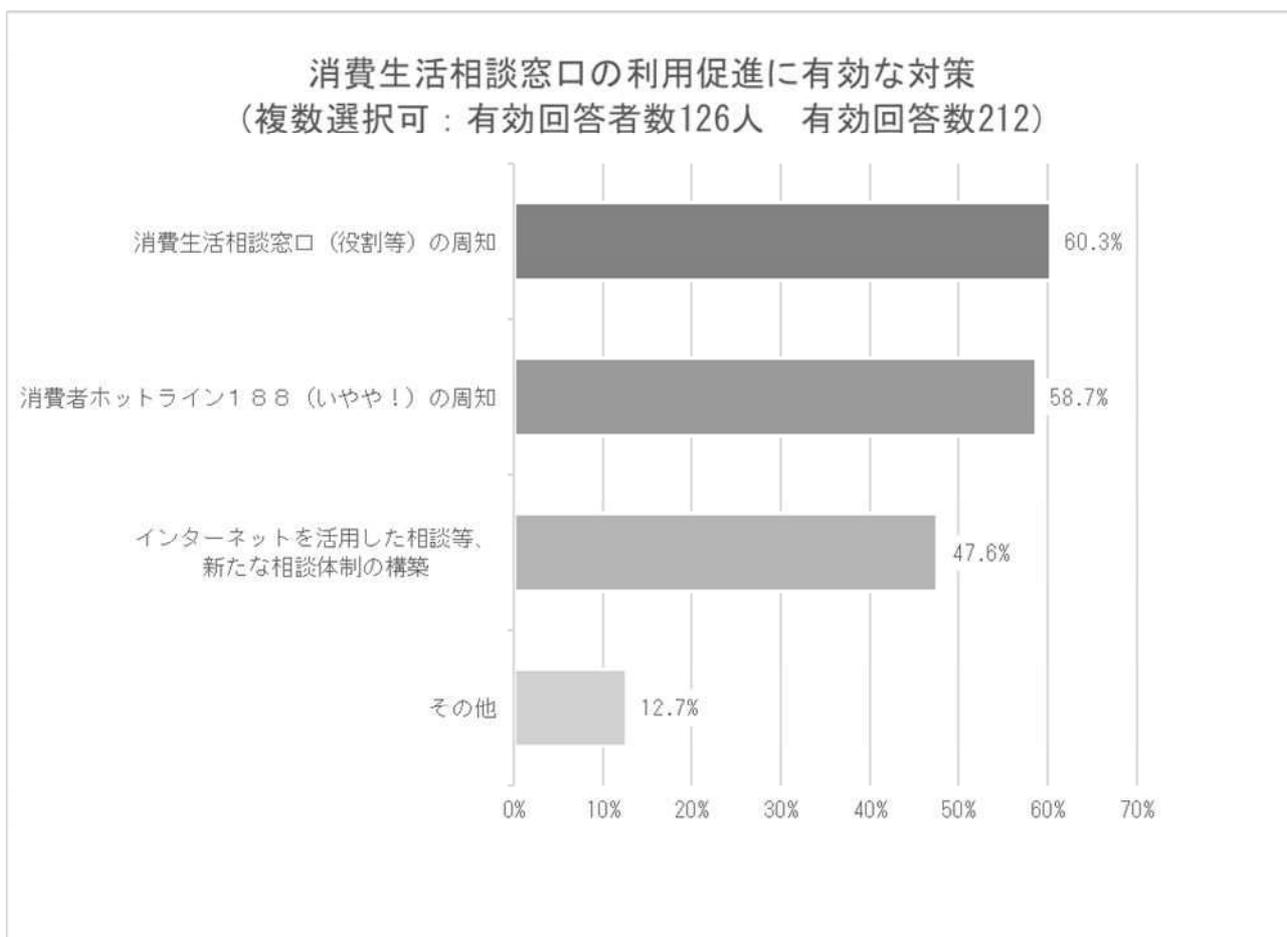
若者の消費者トラブルを未然に防止するために必要であると思われる対策について、「SNSによる消費生活情報の提供」と回答した方が69.2%で最も多く、次いで「WEBページによる消費生活情報の提供」「保護者等の身近な大人への情報提供」と回答した方がそれぞれ39.2%の順であった。



問 20 消費者被害に遭われた方のうち、より多くの方が消費生活相談窓口へ相談するためには、どのような対策が有効であると思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

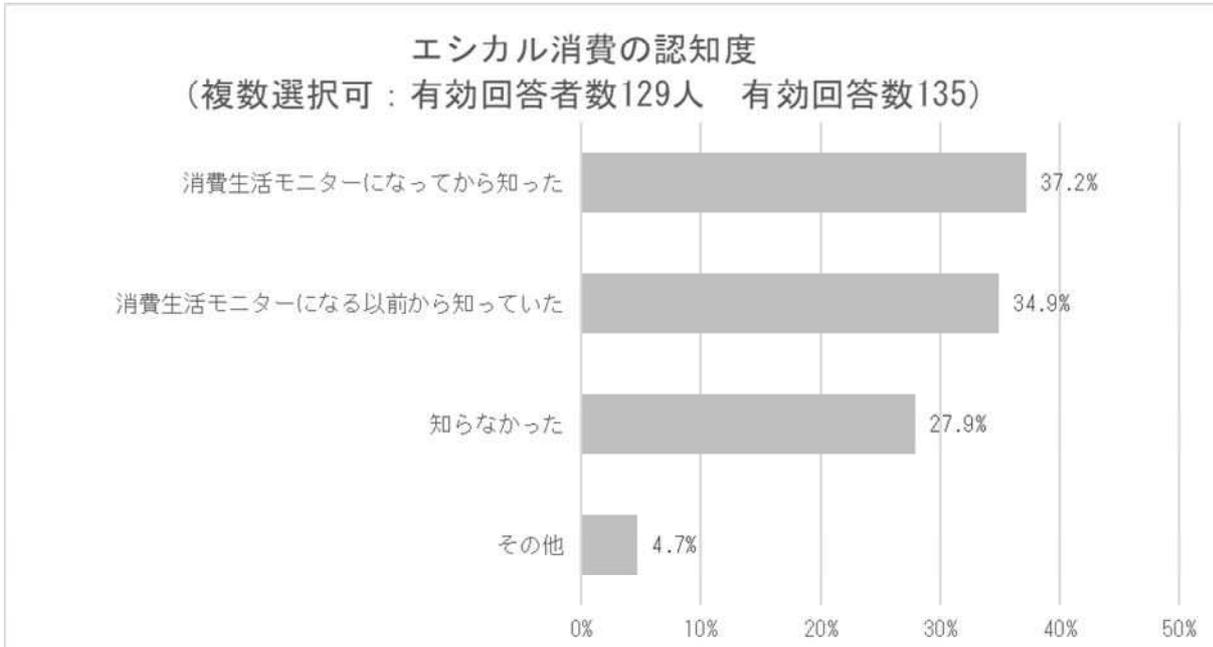
消費生活相談窓口の利用促進に有効な対策について、「消費生活相談窓口（役割等）の周知」と回答した方が 60.3%で最も多く、次いで「消費者ホットライン 188（いやや!）の周知」と回答した方が 58.7%、「インターネットを活用した相談等、新たな相談体制の構築」と回答した方が 47.6%の順であった。



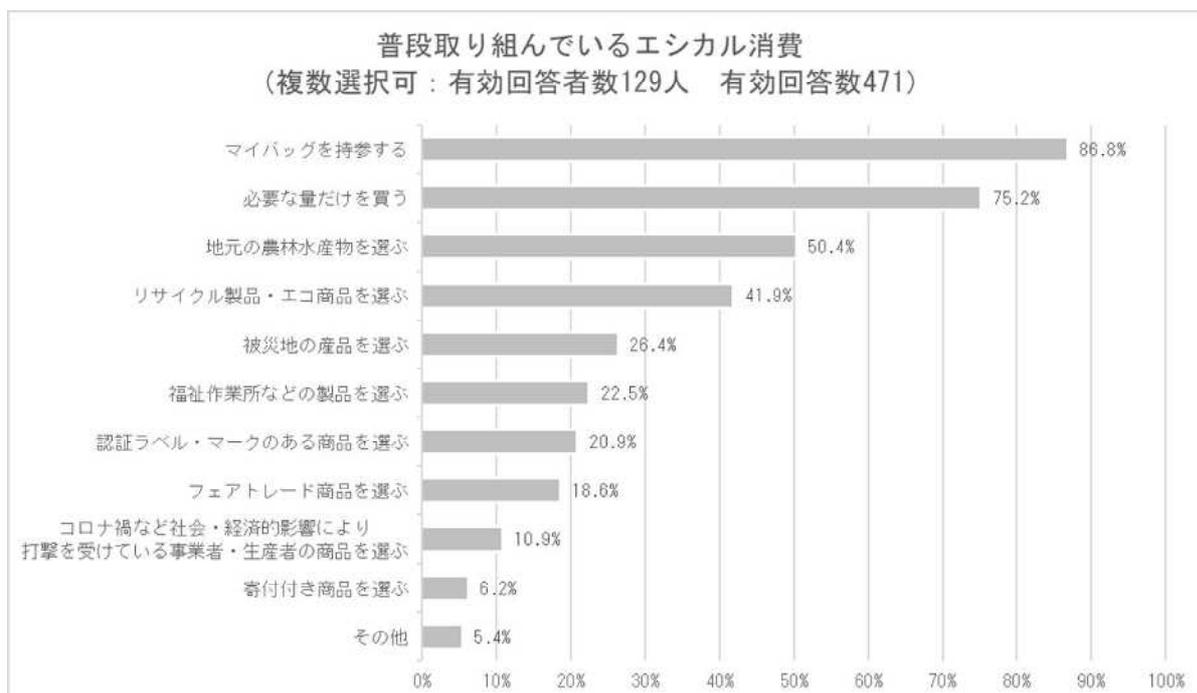
問 21 「エシカル消費」について御存じですか。また、普段どのようなエシカル消費に取り組んでいますか。（複数回答可）

<回答結果>

エシカル消費の認知度について、「消費生活モニターになってから知った」と回答した方が 37.2%で最も多く、次いで「消費生活モニターになる以前から知っていた」と回答した方が 34.9%、「知らなかった」と回答した方が 27.9%の順であった。



また、普段取り組んでいるエシカル消費について、「マイバッグを持参する」と回答した方が 86.8%で最も多く、次いで「必要な量だけを買う」と回答した方が 75.2%、「地元の農林水産物を選ぶ」と回答した方が 50.4%の順であった。

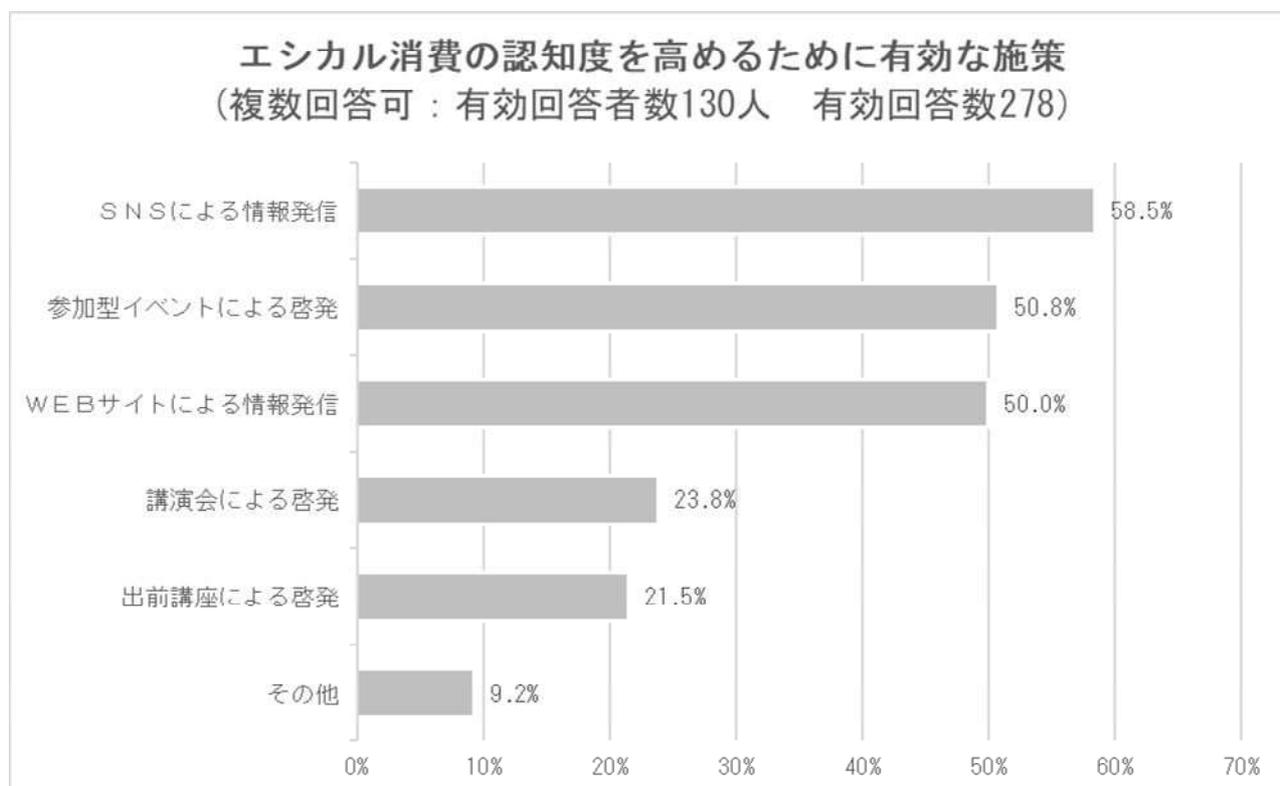


問 22 エシカル消費の認知度を高めるために、どのような施策が有効であると思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

エシカル消費の認知度を高めるために有効な施策について、「SNSによる情報発信」と回答した方が58.5%で最も多く、次いで「参加型イベントによる啓発」と回答した方が50.8%、「WEBサイトによる情報発信」と回答した方が50.0%の順であった。

「その他」の回答には、「学校教育への導入」、「『エシカル』の名称をわかりやすいものに変更する」などがあつた。

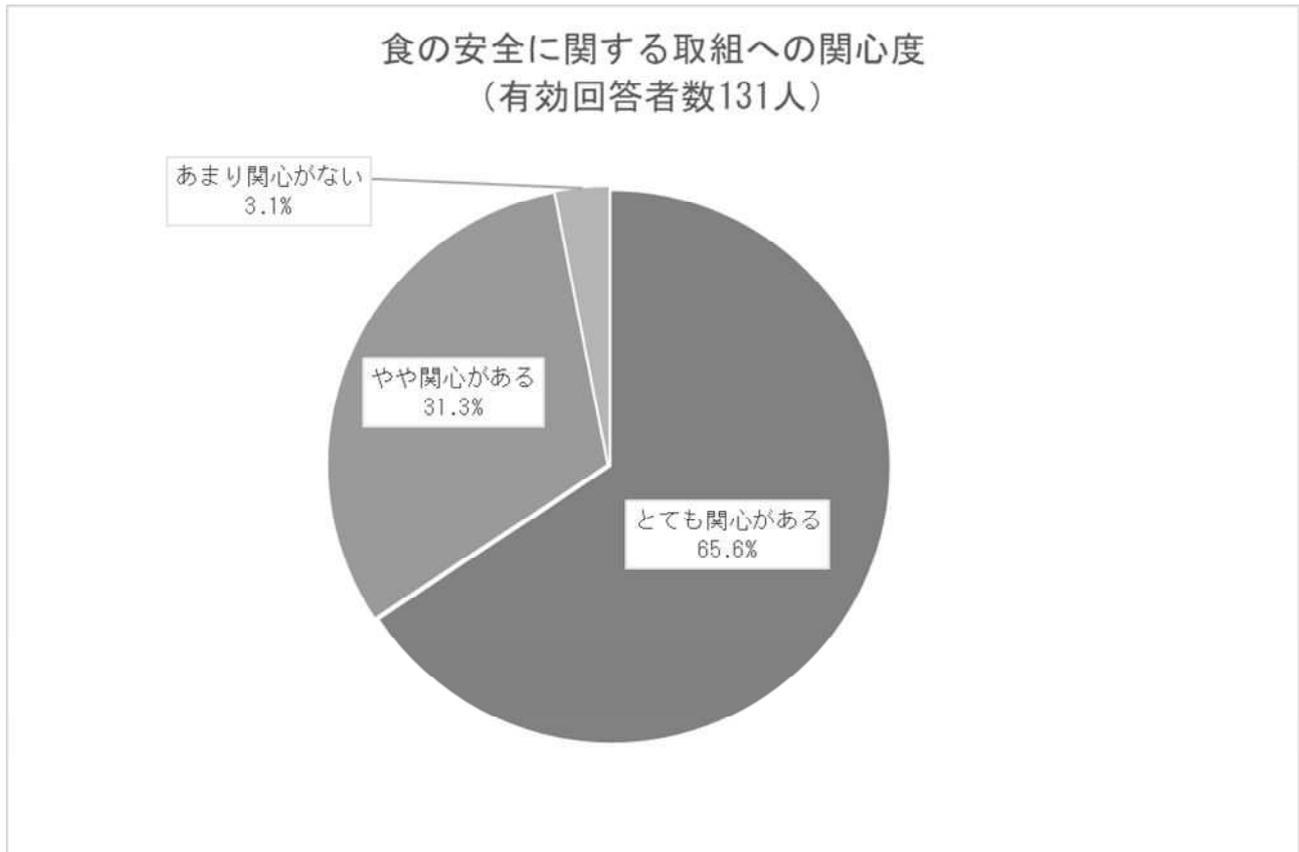


3 食の安全・安心について

問 23 食の安全に関する取組について、どの程度関心を持っていますか。(一つ選択)

<回答結果>

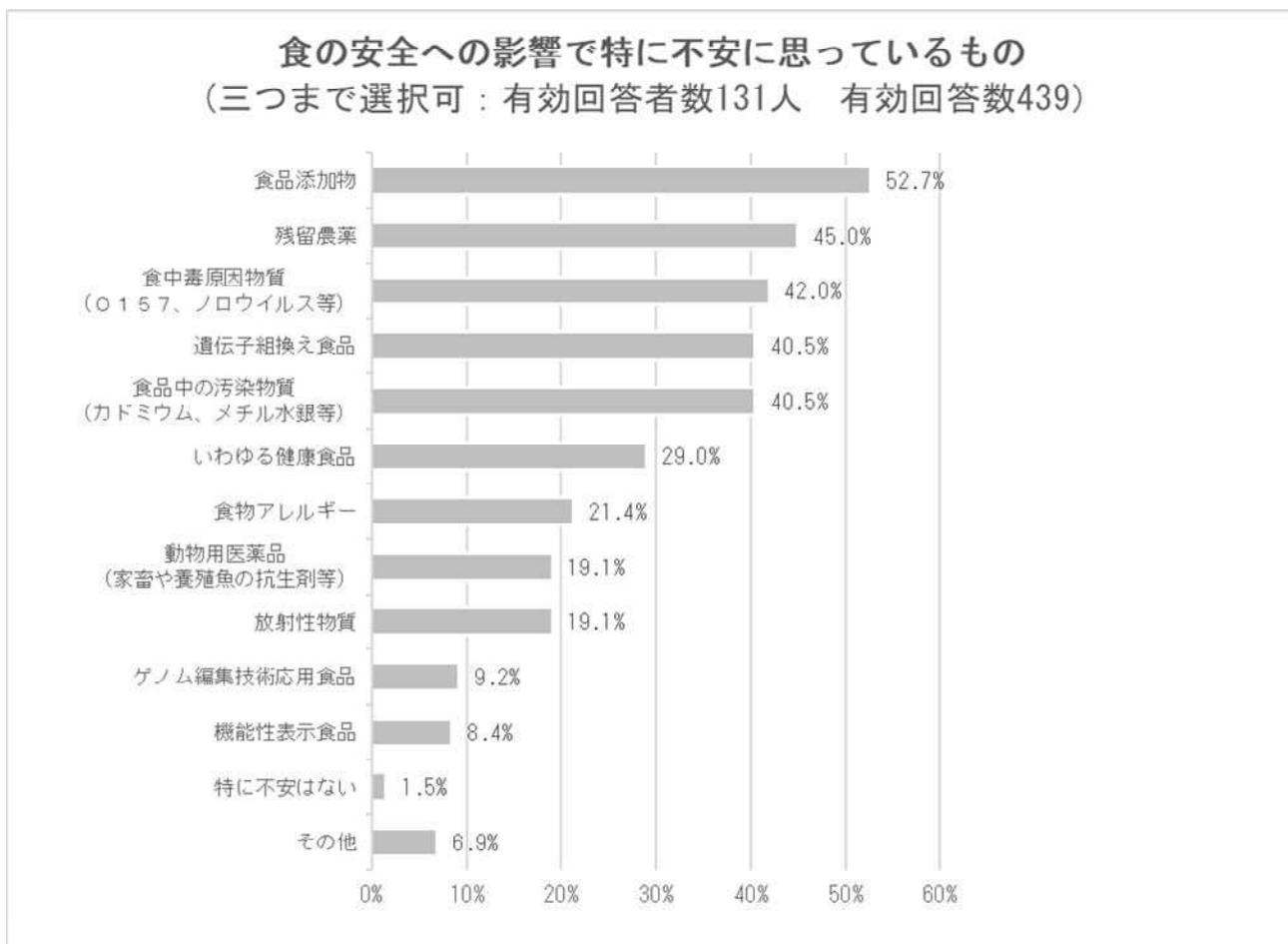
食の安全に対する取組について、「とても関心がある」が 65.6%で最も多く、次いで「やや関心がある」が 31.3%、「あまり関心がない」が 3.1%の順であった。



問 24 食の安全に影響を及ぼすものとして、特に不安に思っているものは何ですか。(三つまで選択)

<回答結果>

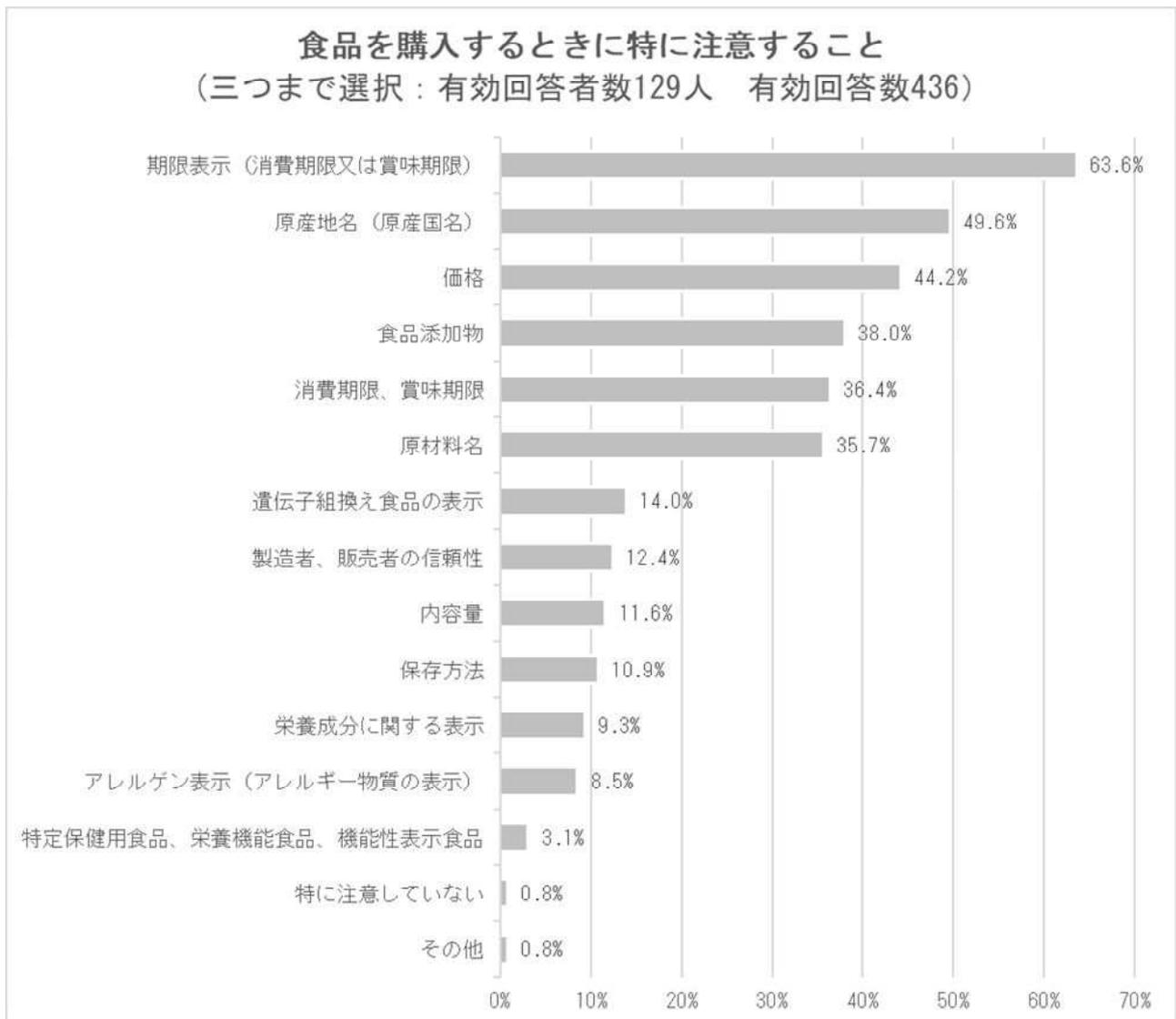
食の安全に影響を及ぼすものとして特に不安に思っているものについて、「食品添加物」と回答した方が 52.7%で最も多く、次いで「残留農薬」と回答した方が 45.0%、「食中毒原因物質（O157、ノロウイルス等）」と回答した方が 42.0%の順であった。



問 25 食品を購入するとき、注意していることは何ですか。(三つまで選択)

<回答結果>

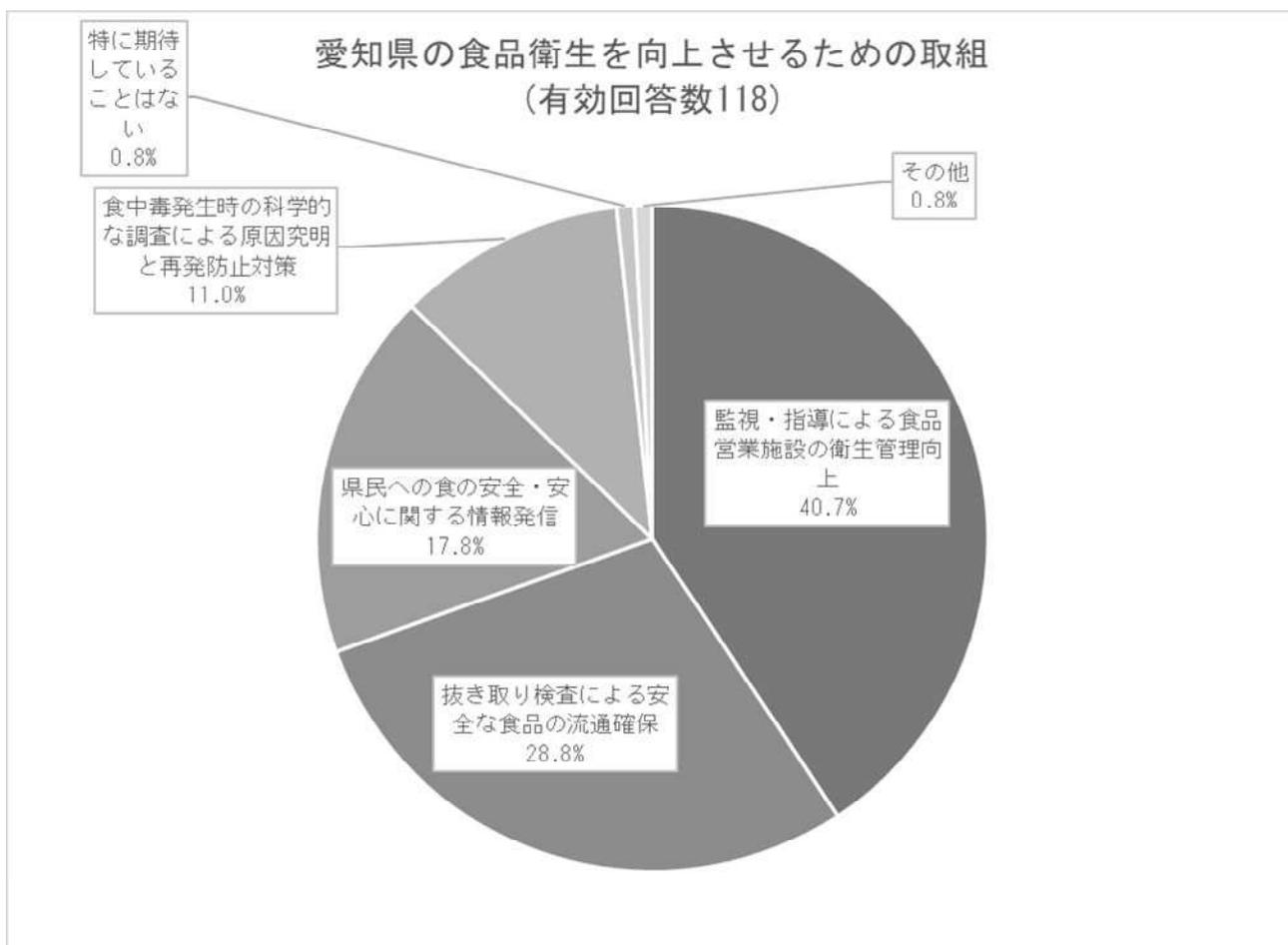
食品を購入するとき特に注意することについて、「期限表示（消費期限又は賞味期限）」と回答した方が63.6%で最も多く、次いで、「原産地名（原産国名）」と回答した方が49.6%、「価格」と回答した方が44.2%の順であった。



問 26 愛知県が行う食品衛生を向上させるための取組として、最も重要と思うことは何ですか。
(一つ選択)

<回答結果>

愛知県の食品衛生を向上させる取組として最も重要と思うことについて、「監視・指導による食品営業施設の衛生管理向上」が40.7%で最も多く、次いで「抜き取り検査による安全な食品の流通確保」が28.8%、「県民への食の安全・安心に関する情報発信」が17.8%の順であった。

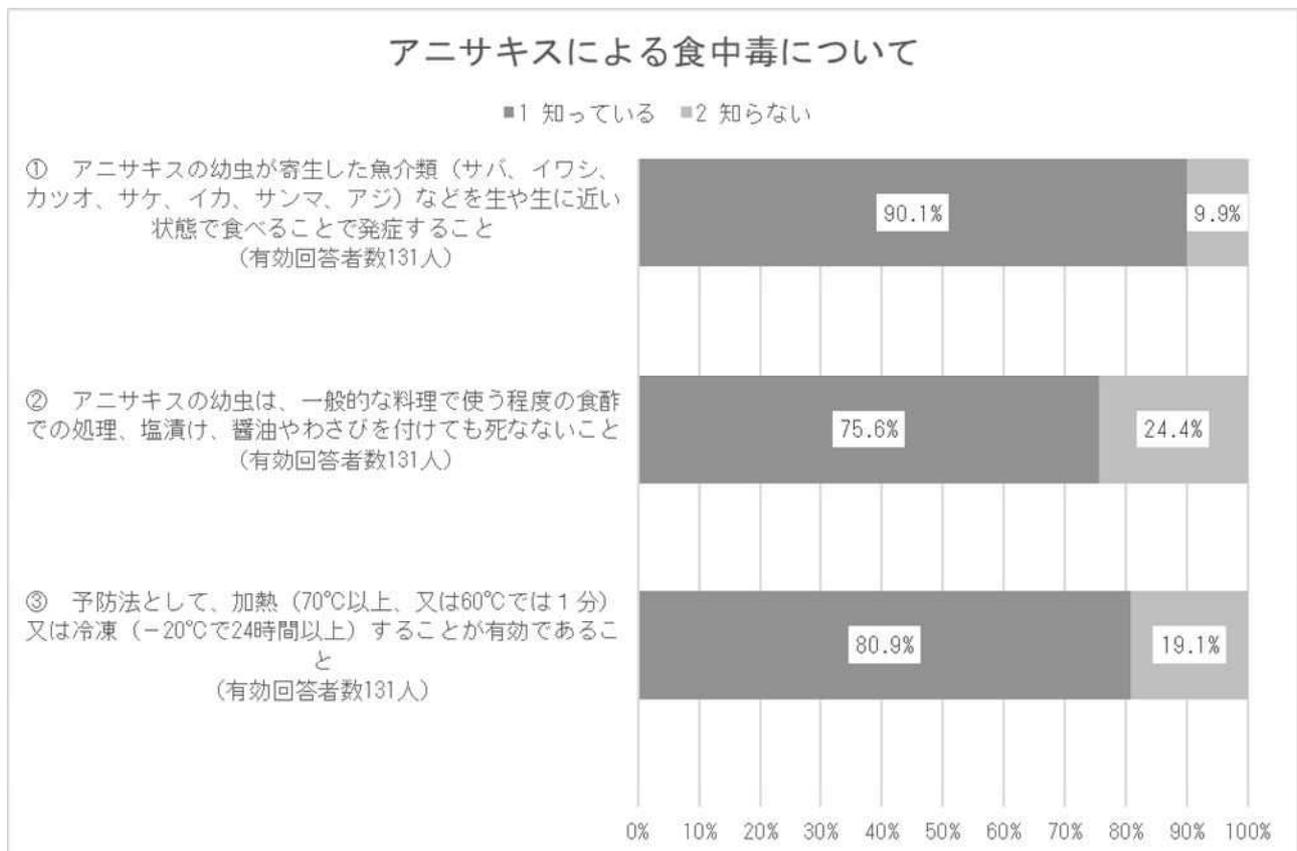


問 27 近年多発するアニサキスによる食中毒について、次のことを知っていますか。(各一つ選択)

- ① アニサキスの幼虫が寄生した魚介類（サバ、イワシ、カツオ、サケ、イカ、サンマ、アジ）などを生や生に近い状態で食べることで発症すること
- ② アニサキスの幼虫は、一般的な料理で使う程度の食酢での処理、塩漬け、醤油やわさびを付けても死なないこと
- ③ 予防法として、加熱（70℃以上、又は60℃では1分）又は冷凍（-20℃で24時間以上）することが有効であること

<回答結果>

アニサキスによる食中毒に関する三つの項目について、「知っている」と回答した方は、① 90.1%、② 75.6%、③ 80.9%であった。

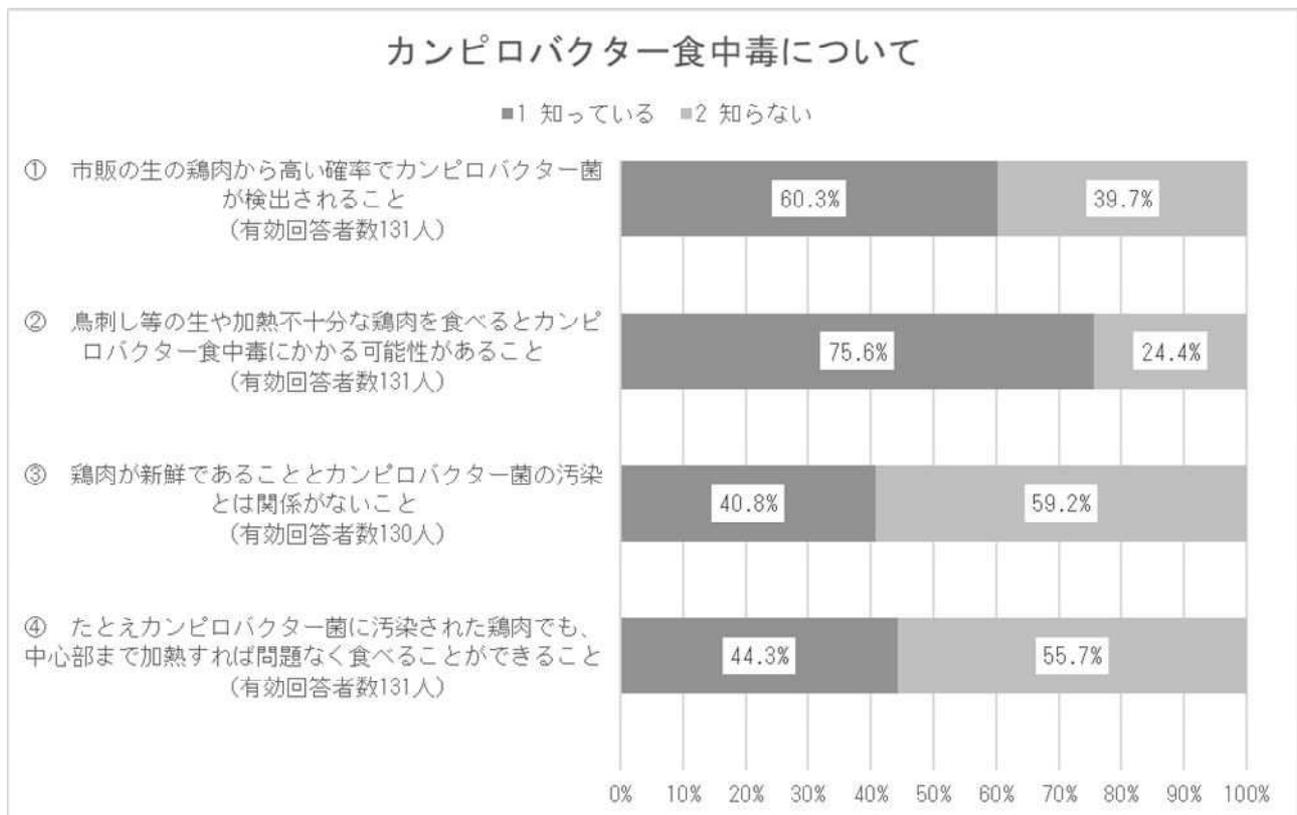


問 28 近年多発するカンピロバクター食中毒について、次のことを知っていますか。(各一つ選択)

- ① 市販の生の鶏肉から高い確率でカンピロバクター菌が検出されること
- ② 鳥刺し等の生や加熱不十分な鶏肉を食べるとカンピロバクター食中毒にかかる可能性があること
- ③ 鶏肉が新鮮であることとカンピロバクター菌の汚染とは関係がないこと
- ④ たとえカンピロバクター菌に汚染された鶏肉でも、中心部まで加熱すれば問題なく食べることができること

<回答結果>

カンピロバクター食中毒に関する四つの項目について、「知っている」と回答した方は、① 60.3%、② 75.6%、③ 40.8%、④ 44.3%であった。

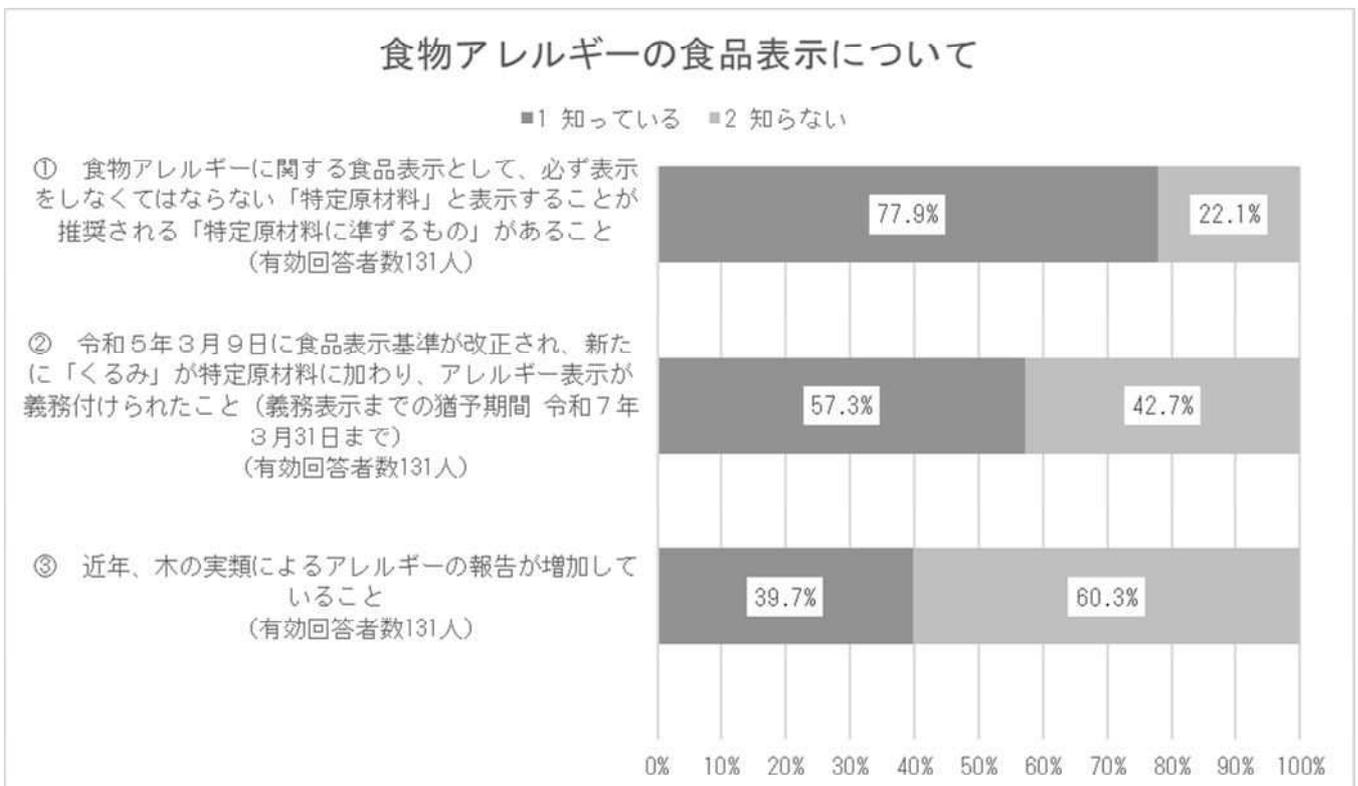


問 29 食品表示制度のうち食物アレルギーについて、次のことを知っていますか。(各一つ選択)

- ① 食物アレルギーに関する食品表示として、必ず表示をしなければならない「特定原材料」と表示することが推奨される「特定原材料に準ずるもの」があること
- ② 令和5年3月9日に食品表示基準が改正され、新たに「くるみ」が特定原材料に加わり、アレルギー表示が義務付けられたこと(義務表示までの猶予期間 令和7年3月31日まで)
- ③ 近年、木の実類によるアレルギーの報告が増加していること

<回答結果>

食物アレルギーに関する食品表示に関する三つの項目について、「知っている」と回答した方は、① 77.9%、② 57.3%、③ 39.7%であった。



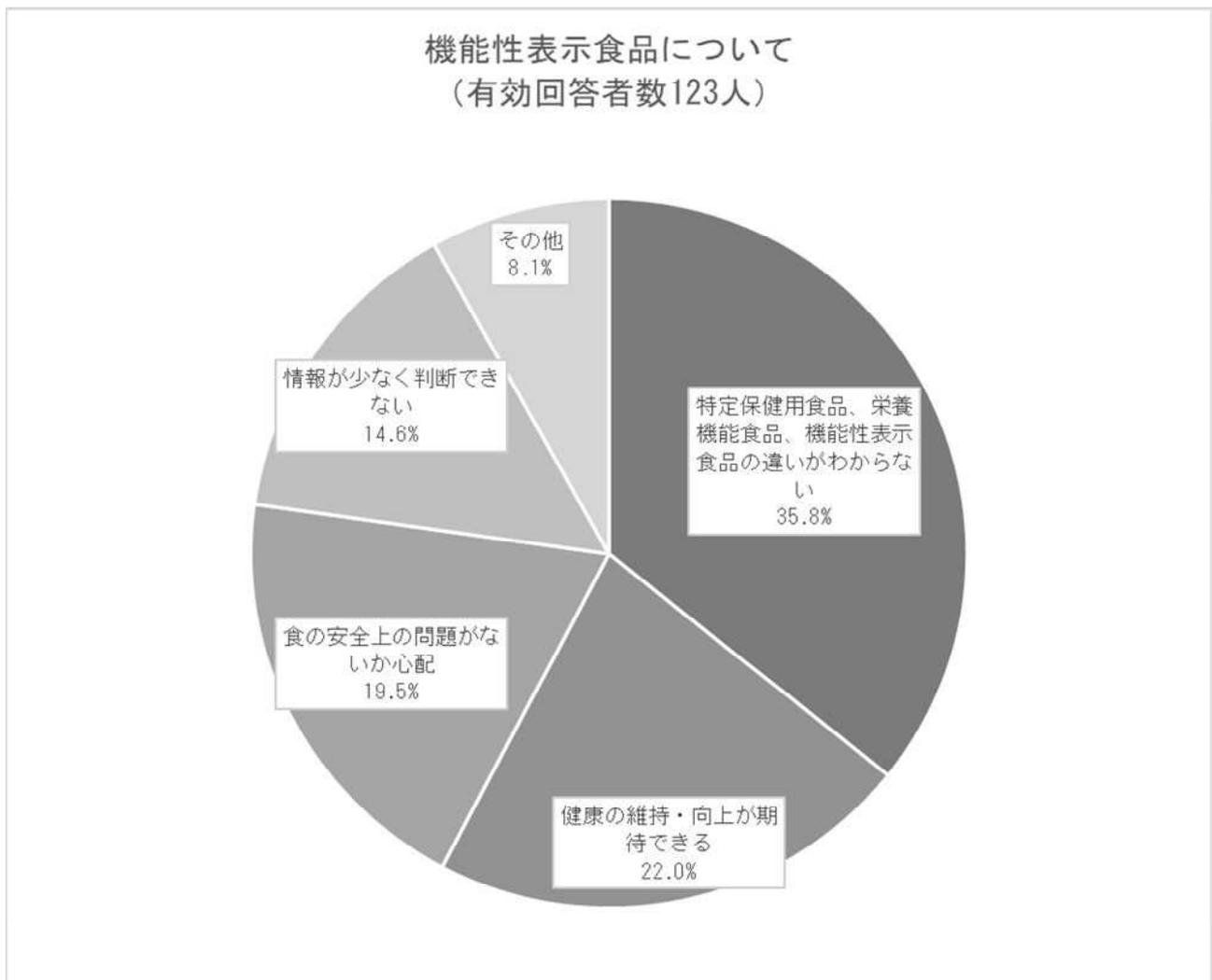
問 30 保健機能食品には、特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品があります。

このうち、機能性表示食品制度※については、今般の紅麹を含む健康食品に関連する健康被害事案を受け、今後の見直し等が検討されています。機能性表示食品について、どのようなイメージを持っていますか。(一つ選択)

※ 国の定めるルールに基づき、事業者が食品の安全性と機能性に関する科学的根拠などの必要な事項を、販売前に消費者庁長官に届け出れば、機能性を表示することができる制度。

<回答結果>

機能性表示食品について、どのようなイメージを持っているかについて、「特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品の違いがわからない」が35.8%で最も多く、次いで「健康の維持・向上が期待できる」が22.0%、「食の安全上の問題がないか心配」が19.5%、「情報が少なく判断できない」が14.6%の順であった。



問 31 愛知県では Facebook 等で食の安全・安心に関する情報発信を行っています。また、今後WEBページでも情報発信を行っていく予定です。以下のうち、どのような内容を期待しますか。
(三つまで選択)

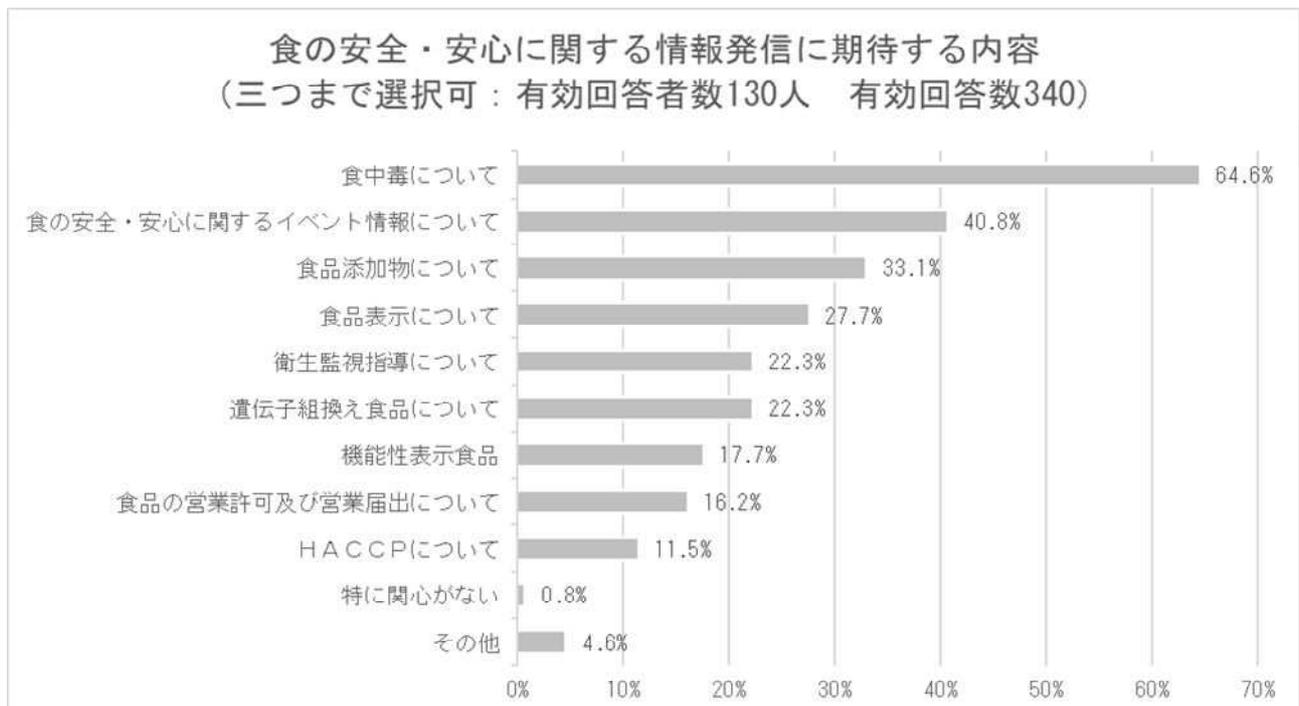
【Facebook】

- 愛知県食の安全・安心情報サービス /Facebook

<https://www.facebook.com/aichishokuhin>

<回答結果>

愛知県の食の安全・安心に関する情報発信に期待する内容について、「食中毒について」と回答した方が64.6%で最も多く、次いで「食の安全・安心に関するイベント情報について」と回答した方が40.8%、「食品添加物について」と回答した方が33.1%であった。



問 32 食の安全・安心に関する意見・要望等について、自由に記入してください。

食の安全・安心に関する意見・要望等を自由に記載していただきました。ここでは、そのうち一部を抜粋して紹介します。

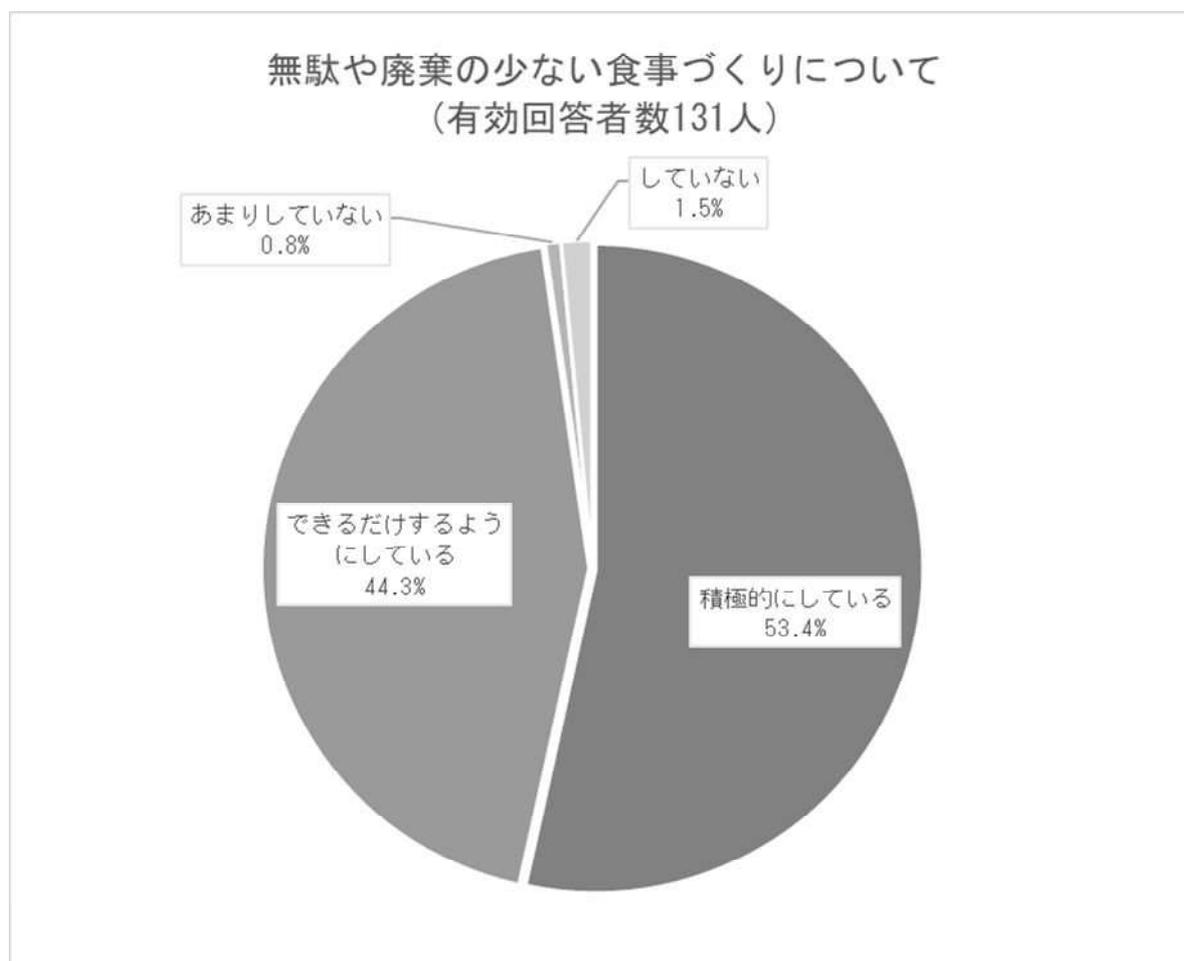
- ・食品添加物について、諸外国で禁止されている添加物を、国が認めたからといって多く使用している。身体健康を害するとわかっていれば、なぜ行政は止めないのか疑問です。
- ・食品営業施設への監視指導の強化による衛生管理向上をお願いします。
- ・未知の物質による食品の健康被害が発生した場合、製造者の責任はどうなるのか知りたい。
- ・無農薬、減農薬、有機栽培野菜や愛知県産の新鮮な野菜が、もっと手軽に身近なスーパーや八百屋や販売所で購入できると嬉しいです。
- ・県の取り組みを知らない人が私を含め多いと思う。ネットばかりではなく、紙、TVの活用をお願いいたします。
- ・食品表示をチェックして購入しているんですが、同じ製品でも（加工品）価格に大きく差があったり、使われている原材料が違ったりするので、商品を選ぶときに迷います。安全・安心とは何で選べばいいのかわからなくなります。
- ・賞味期限も必要ですが、製造日を記入しないのは不安がある。全ての商品に製造日を記入してほしい。
- ・化学肥料、農薬を法律に従って適正に使用し、高品質な農産物を生産量、価格とも安定流通させている生産者について消費者に認知してもらいたい。「農薬＝危険！害！」と否定する理解のない消費者の割合が多いように感じます。
- ・食品のリスクについて、わかりやすく、様々な場で学べる様に、行政として指導、援助される事を期待します。
- ・子どもへの教育（義務教育内での教育）を期待する。
- ・オーガニックの基準が海外に比べてゆるい。
- ・飲食店はまだ食の安全安心に意識が低い面が多くみられますので、行政の指導強化を望みます。
- ・着色料などの安全性を詳しく知りたい
- ・まず関心を持ってもらうような注意・喚起とかPRが大切だと思う。

4 食生活について

問 33 あなたは、食べ残しなど無駄や廃棄の少ない食事づくりを行っていますか。(一つ選択)

<回答結果>

無駄や廃棄の少ない食事づくりについて、「積極的にしている」と回答した方が 53.4%で最も多く、次いで「できるだけするようにしている」と回答した方が 44.3%、「していない」と回答した方が 1.5%の順であった。

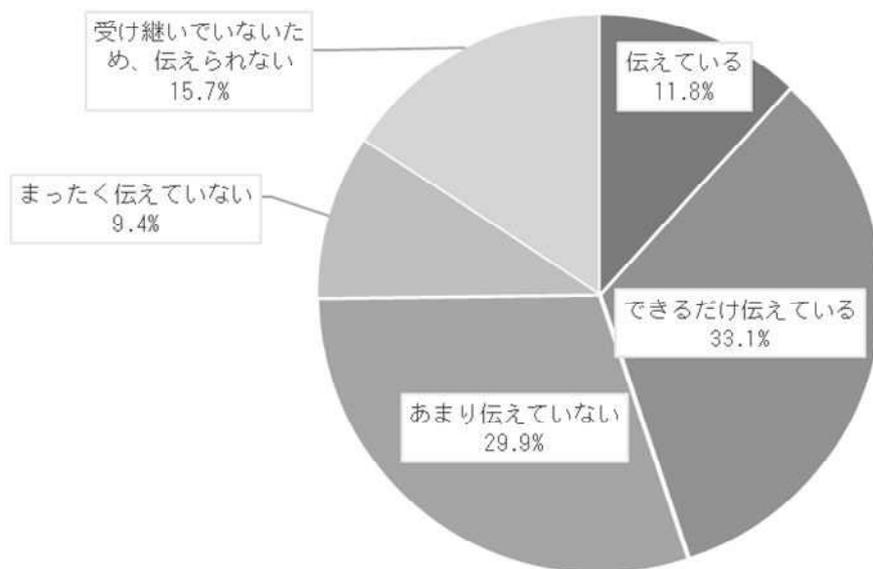


問 34 あなたは、家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えていますか。（一つ選択）

<回答結果>

家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えているかについて、「できるだけ伝えている」と回答した方が 33.1%で最も多く、次いで「あまり伝えていない」と回答した方が 29.9%、「受け継いでいないため、伝えられない」と回答した方が 15.7%、「伝えている」と回答した方が 11.8%、「まったく伝えていない」と回答した方が 9.4%の順であった。

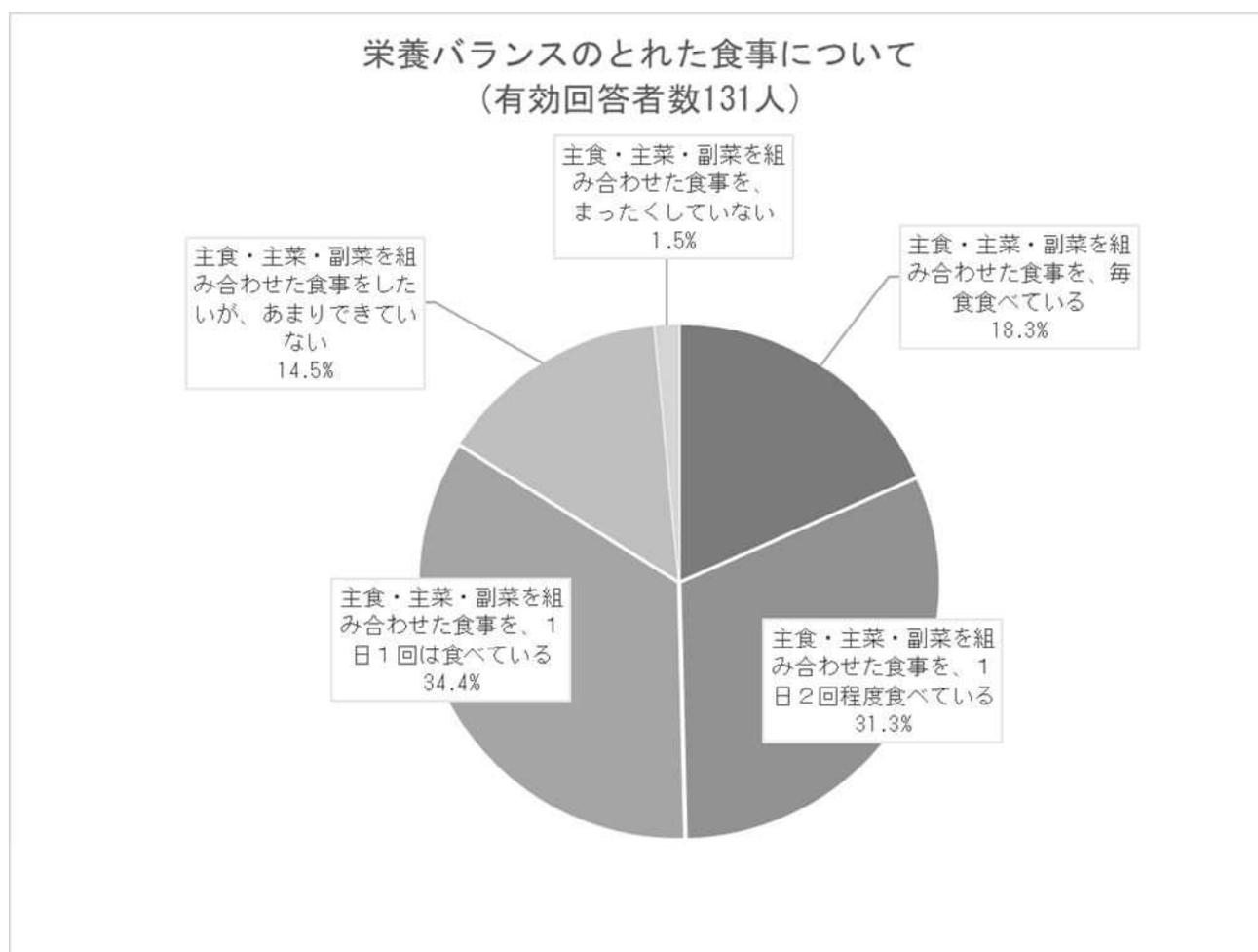
郷土料理等の食文化の家庭・地域への継承について
(有効回答者数127人)



問 35 あなたは、栄養バランスに配慮し、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしていますか。
(一つ選択)

<回答結果>

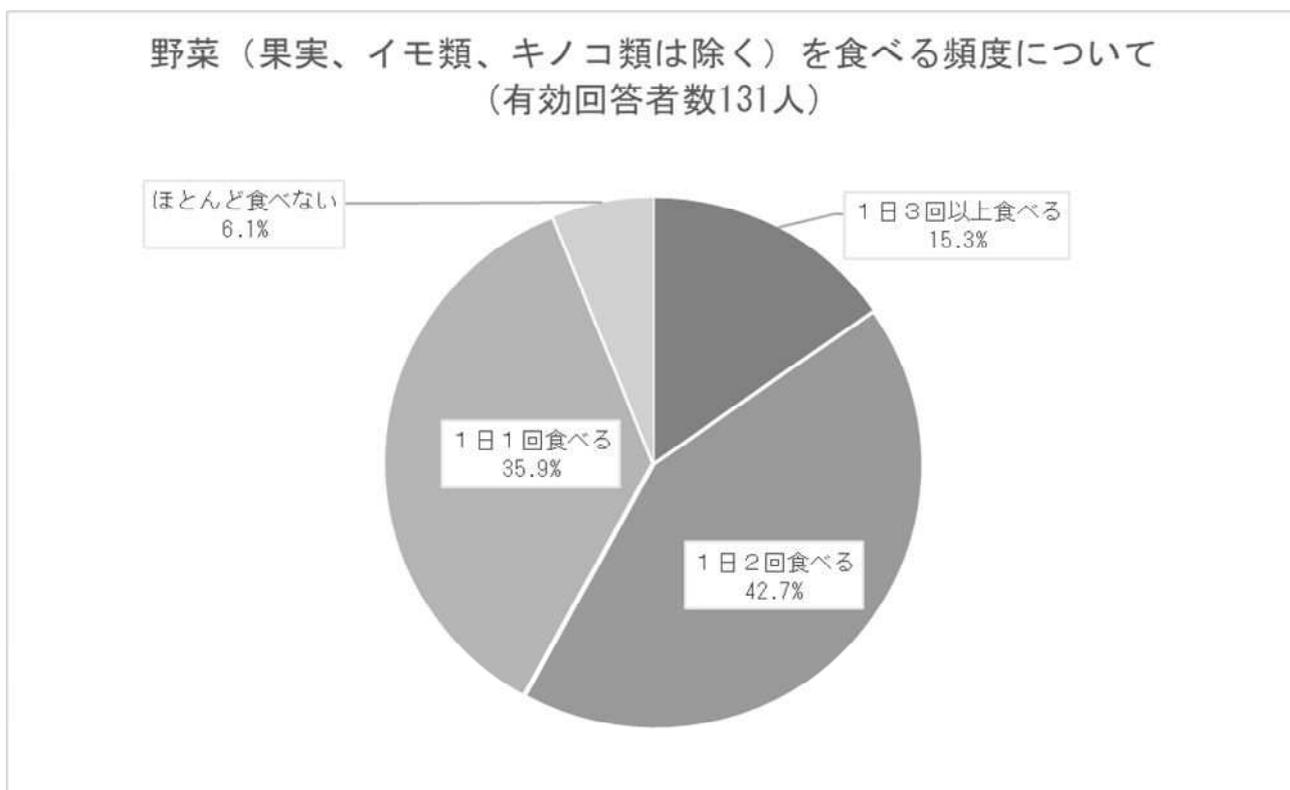
栄養バランスのとれた食事について、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、1日1回は食べている」と回答した方が34.4%で最も多く、次いで「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、1日2回程度食べている」と回答した方が31.3%、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、毎食食べている」と回答した方が18.3%、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしたいが、あまりできていない」と回答した方が14.5%の順であった。



問 36 あなたは、野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度はどのくらいですか。（一つ選択）

<回答結果>

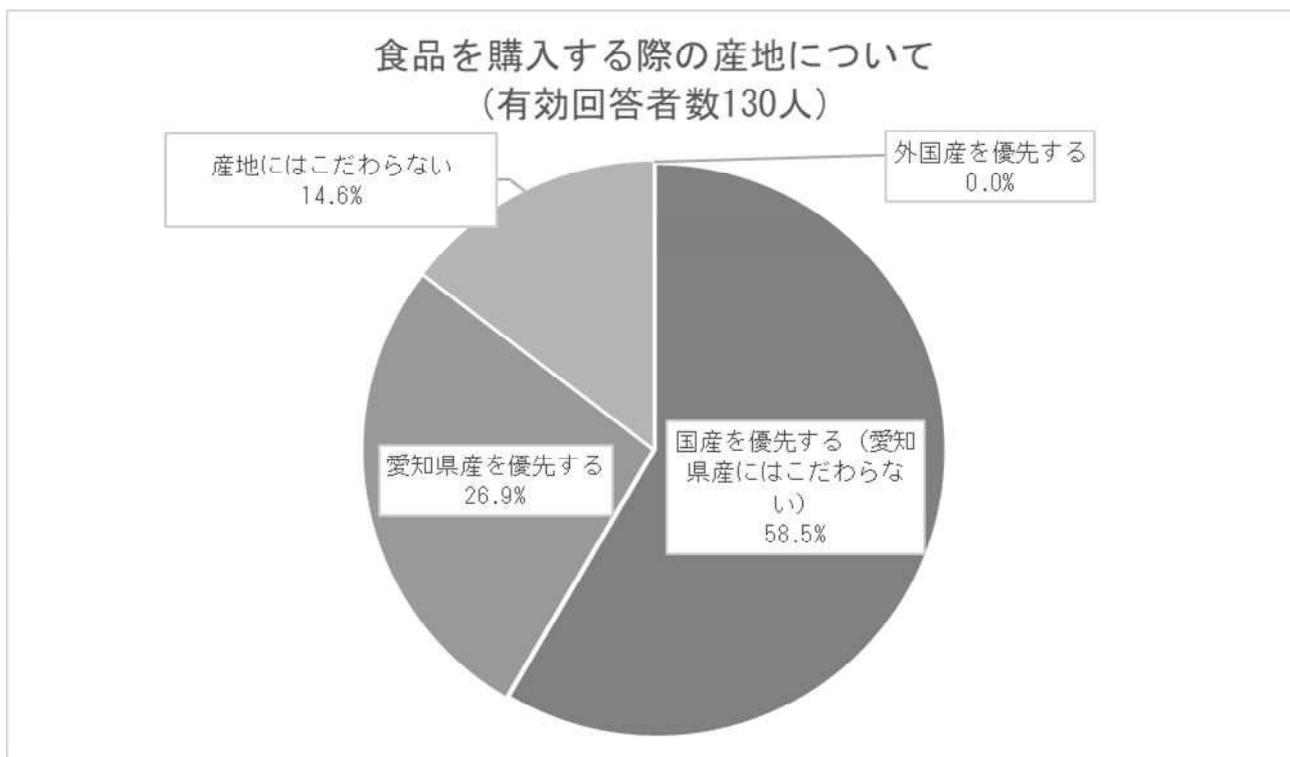
野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度について、「1日2回食べる」と回答した方が42.7%で最も多く、次いで「1日1回食べる」と回答した方が35.9%、「1日3回以上食べる」と回答した方が15.3%の順であった。



問 37 あなたは、食品を購入する際に、どのような産地を優先して購入しますか。(一つ選択)

<回答結果>

食品を購入する際の産地について、「国産を優先する（愛知県産にはこだわらない）」と回答した方が 58.5%で最も多く、次いで「愛知県産を優先する」と回答した方が 26.9%、「産地にはこだわらない」と回答した方が 14.6%の順であった。



消費生活モニターアンケート調査報告
メインテーマ：「農産物価格の適正化について」

2024年11月発行

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 052-954-6163（ダイヤルイン）